



海外・国内トップ大進学情報誌

# Route Book



**「世界中から進路を選ぶ」をスタンダードに。**

日本の高校からハーバード大、イェール大をはじめとした海外のトップ大に、毎年多数の合格者を輩出し続ける進学塾「Route」グループが  
『出願対策』×『英語テスト対策』で日本の中高生のグローバル進路実現をサポートします。

# 「世界中から進路を選ぶ」をスタンダードに。

高校卒業後に日本国内の大学に加え、海外の大学を当たり前を目指す時代になりました。

「世界中から進路を選ぶ」という姿勢が広がる一方で、合格へのノウハウが一般化されるには至っていません。

そのノウハウは、毎年多くの海外トップ大学・国内グローバル系大学へ合格者を輩出している「Route」グループへ蓄積されています。その確かさは、ハーバード大、イェール大をはじめとした海外トップ大への多数の合格実績が証明しています。グローバルな進路に挑む際の道標としてこの冊子をぜひお役立てください。

進学先もグローバルな視点から選ぶ時代。

あなたの未来を拓く挑戦を「Route」グループが応援します。

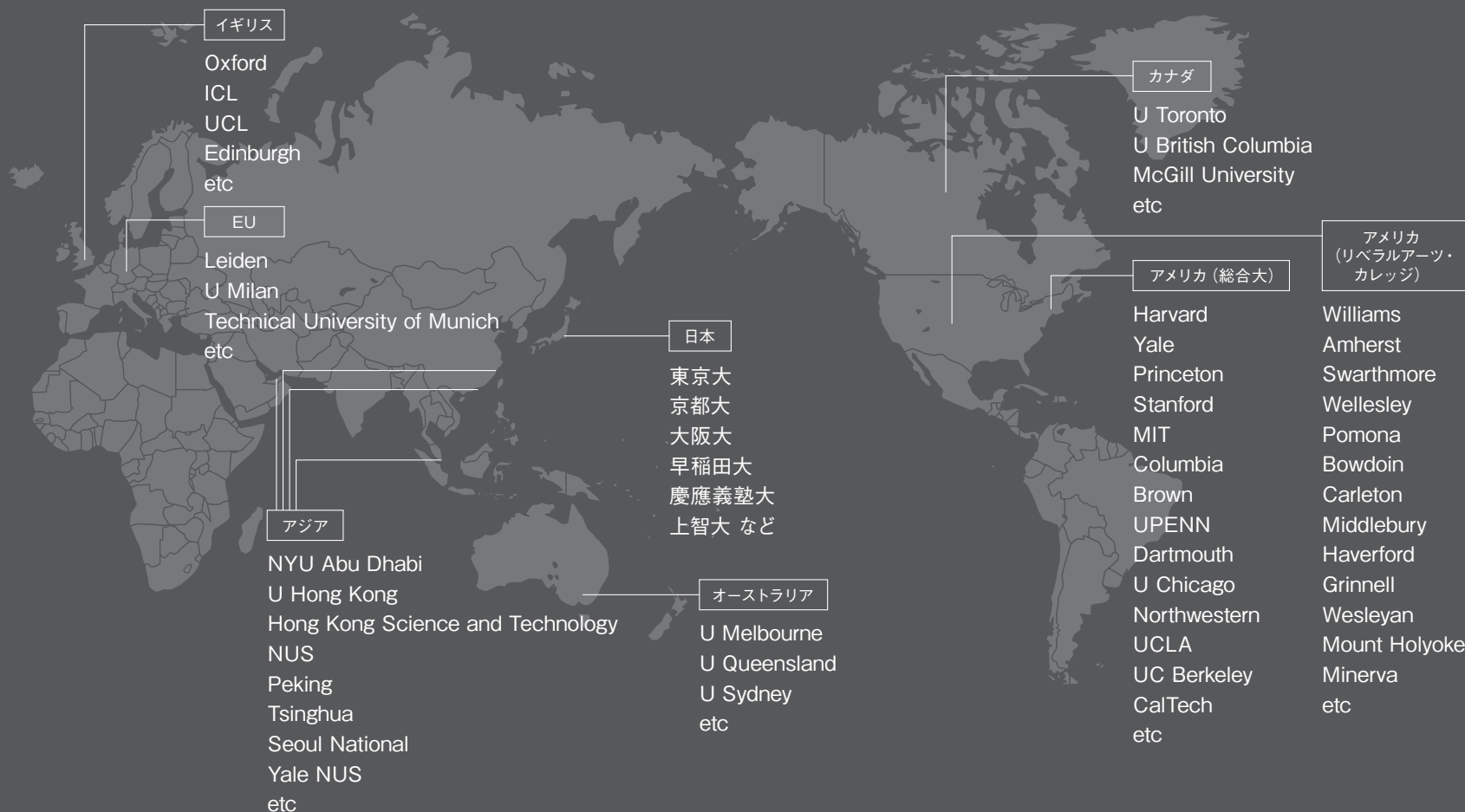
「Route」グループ講師一同

※この冊子でご紹介しているものの名称・サービス内容などは変更になる場合があります。

※検定や大学に関する情報は、各オフィシャルサイトを必ずご確認ください。

# 日本国内のトップ大のみならず世界のトップ大に広がる進学先

「世界中から進路を選ぶをスタンダードに」を体現する卒業生たち。その進路はアイビーリーグやリベラルアーツカレッジなど米国の名門大学をはじめ、イギリス、カナダ、オーストラリア、日本など世界各地へと広がっています。



# Elite Research Universities

## 世界の名門大学

世界を代表する名門大学の多くは世界ランキングでも常に上位に名を連ね、入学志願者数は年々増える傾向にある。国籍を問わずに優秀な頭脳を選りすぐり学内の活性化に努める開かれた姿勢が世界中の高校生を惹きつけているからだ。合格率はいずれも低く超難関。その難度もますます高まりつつあるが、必要な対策を行えば日本からの進学も決して夢ではない。

### Harvard University ハーバード大学

世界のトップを独走する私学の雄である。全米最古の大学で世界ランクで常に最上位にランクされる私立大学。留学生の入学基準は国内学生と同じ。Ivy Leagueに所属。



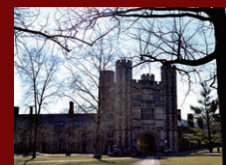
### Yale University イェール大学

ハーバード、プリンストンと並ぶ不動の名門私立大学。全米で3番目に古い大学である。学生の出身国は70か国以上。Ivy League、IARUIに所属。



### Princeton University プリンストン大学

教育・研究の両立で名高い難関校。世界ランク上位の常連校。少数精鋭主義で知られ、ノーベル賞受賞者を多数算出。



### Stanford University スタンフォード大学

産業界を牽引する西海岸の最高峰。全米BIG 4の一角をなす名門。理系・文系を問わず世界的な名声を誇る。



所在地	MA USA	CT USA	NJ USA	CA USA
設立	1636年	1701年	1746年	1891年
公立/私立	Private	Private	Private	Private
留学生比率	26%	20%	23%	23%
合格率	4.63%	6.08%	—	4.34%
早期出願	Early Action (Restrictive)	Early Action (Restrictive)	Single-Choice Early Action	Early Action (Restrictive)
英語スコア目安	SAT 1480-1580 / ACT 33-36 TOEFL 提出可	SAT 1480-1580 / ACT 33-35 TOEFL 100	SAT 1460-1570 / ACT33-35 TOEFL必須	SAT 1470-1570 / ACT34-36 TOEFL推奨

※留学生比率の出典は、World University Rankings

※合格率、早期出願の出典は、College Board

※2024年7月現在。

## Columbia University コロンビア大学

世界の頭脳が集まる都市型キャンパス。150か国から留学生が学ぶ。出身・所属のノーベル賞受賞者は過去70人以上を誇る。



## University of Pennsylvania ペンシルバニア大学

文教都市に建つ国際色豊かな名門。世界的に知られる世界最古の医学部を持ち、ウォートンビジネススクールも有名。



## Brown University ブラウン大学

教育力に定評ある東海岸の優良校。大学院進学率が郡を抜いて高く、すべての教員が学部課程と大学院の指導を兼任する。



## Massachusetts Institute of Technology マサチューセッツ工科大学

世界に冠たる理工系エリート校。自然科学と工学系で名実ともに世界のトップ。ハーバード大学との単位互換制度あり。



## University of Oxford オックスフォード大学

世界ランキング3年連続1位。11世紀末に設立された英語圏最古の大学である。イギリス伝統のカレッジ制を導入している公立大学。Russell Groupに所属。



## University of Cambridge ケンブリッジ大学

世界屈指の名門公立大学の一つ。英語圏では、2番目に古い大学である。オックスフォードと同じく、イギリス伝統のカレッジ制を導入している。Russell Groupに所属。



NY USA

PA USA

RI USA

MA USA

Oxford UK

Cambridge UK

1754年

1740年

1764年

1861年

1096年

1209年

Private

Private

Private

Private

Public

Public

37%

21%

20%

34%

41%

38%

5.27%

7.66%

4.29%

6.69%

—

—

Early Decision

Early Decision

Early Decision

Early Action (Not-restrictive)

—

—

SAT 1460-1570 / ACT33-35  
TOEFL100

SAT 1480-1570 / ACT33-35  
TOEFL100

SAT 1460-1570 / ACT33-35  
TOEFL100

SAT 1510-1580 / ACT34-36  
TOEFL90 (推奨は100)

SAT 1480-1600 / ACT33-36  
TOEFL100-110

SAT 1470-1600/ACT32-36  
TOEFL100-110

※留学生比率の出典は、World University Rankings

※数値は目安です。詳細は必ず大学のオフィシャルページでご確認ください。

※英語スコア目安の出典は、US News

# Times Higher Education World University Rankings 2025

## 世界大学ランキング

世界には、2万を超える大学が存在する。名門校の多くは世界でもトップに位置している。タイムズ社の世界大学ランキングを見れば英語圏の大学の評価がいかに高いかがわかる。その圧倒的な強さを支えているのは優れた教育研究レベルはもとよりそれを可能にする強大な資金力と活力を生み出すフレキシブルな制度、そして世界中から集まる有能な学生たちだ。

順位	大学名	国名
1	University of Oxford	イギリス
2	Massachusetts Institute of Technology	アメリカ
3	Harvard University	アメリカ
4	Princeton University	アメリカ
5	University of Cambridge	イギリス
6	Stanford University	アメリカ
7	California Institute of Technology	アメリカ
8	University of California, Berkeley	アメリカ
9	Imperial College London	イギリス
10	Yale University	アメリカ
11	ETH Zurich	スイス
12	Tsinghua University	中国
13	Peking University	中国
14	The University of Chicago	アメリカ
14	University of Pennsylvania	アメリカ
16	Johns Hopkins University	アメリカ
17	National University of Singapore	シンガポール
18	Columbia University	アメリカ
18	University of California, Los Angeles	アメリカ
20	Cornell University	アメリカ
21	University of Toronto	カナダ
22	UCL	イギリス
22	University of Michigan-Ann Arbor	アメリカ
24	Carnegie Mellon University	アメリカ
25	University of Washington	アメリカ



# なぜ今、日本の中高生は海外トップ大を目指すのか？

世界中から集まる学友とともにディスカッションなど、アウトプットの多い授業を受けることによって身につく知識・スキル、寮生活を通じて培われる人間力や世界に広がる仲間のネットワークに魅力を感じる中高生は多い。また、文理にまたがり副専攻やダブル専攻をすることも可能なため、自分の興味のある分野を追求できることも魅力となっている。

## 海外トップ大の魅力

### ダイバーシティが生む活力

文化や世代の違いを超えて世界中から集まる学生の多様性 (diversity) が、大学に活力をもたらしている。入学審査で活動実績が重視されるのもそのため。多才な友人たちと切磋琢磨し、世界中にネットワークが広がることで、さらに「大学力」が高まることになる。

### 多様でフレキシブルな教育力

アメリカの大学では、1、2年次の教養課程で幅広く学んでから専攻を絞るため、カリキュラムは柔軟性に富む。他の国の多くは、選考を決め入学をし1年時から研究ができる大学が多い。世界の大学では、副専攻やダブル専攻で同時に2つの分野を学んだり、海外留学や他大学での聴講、単位互換なども盛んである。

### 学費援助を支える資金力

世界の大学の多くでは、優秀な学生を多く集めるため奨学金 [Scholarship] を留学生に用意している。授業料の一部を補助してくれる大学や生活費までカバーしてくれる大学など多岐にわたる。出願時には、「Scholarship」にぜひ挑戦してほしい。

理系・文系を問わず自らの  
学びたい分野を追求できる  
副専攻・ダブル専攻の一例

Computer  
Science

Philosophy

Chemistry

History of  
Arts

Statistics

Economics

### 豊富な選択肢とリソース

学業面のプログラムの豊富さに加え、課外活動やフィールドワークなどの選択肢が豊富でかつレベルが高いものも多い。レベルの高い教授陣や最先端な研究施設などトップ大の豊富なリソースを有効活用することをお勧めする。選択肢が多いため、個々のニーズに合わせた最適な学業や活動を選択することが可能である。

### 寮生活で培われる人間力

多くの新入生が寮生活では、他国の学生との交流の中でそれぞれの価値観を知り、多様性や異文化理解を深めることができる。また、高度なコミュニケーション能力を身につけることもできるのも魅力だ。様々な国の学生と交流を深めることによって各国の研究や就職情報なども得ることができる。

### ディスカッションで切磋琢磨

規模の大きい大学では、教授の「講義」以外に、助手 (TA) が担当する少人数授業 (チュートリアルやセクションなどと呼ばれる) があり、講義の受講を前提に、ディスカッションなどで仲間と切磋琢磨しながら科目に対する理解を深める仕組みが徹底している。

# US Liberal Arts Colleges

## US Liberal Arts大学

近年、リベラルアーツ教育への関心が高まっている。その背景には、高校在学中に学問の専攻を確実に決めて進学することへの不安感や大学入学後に興味関心が変わることへのリスクを感じている学生が増加していることがある。リベラルアーツ大学は、総合大学同様、自分自身の興味のある学問を探すために様々な分野の学問を大学1、2年で選択して学ぶことができる。そして興味を持った学問を3、4年で専門性を深めていくことが可能である。また、少人数クラスの中でディスカッションを中心とした授業を展開することも人気の理由だ。

### リベラルアーツ・カレッジ・トップ大学の例(ランキングは変わる場合があります)

#### Williams College ウィリアムズ大学(マサチューセッツ州)

リベラルアーツ・カレッジの最高峰。  
オックスフォード型のチュートリアル制度を採用し、  
教授との1対1の議論で学生を徹底的に鍛え上げる。

#### Amherst College アマースト大学(マサチューセッツ州)

ウィリアムズ大学と長年のライバル大学。  
5大学コンソーシアムを組んでおり、学生はコンソーシアム内で  
5,000以上のクラスから履修クラスを選択できる。

#### Pomona College ポモナ大学(カリフォルニア州)

西海岸では数少ないリベラルアーツ・カレッジとして絶大な人気を誇る名門。  
学生一人あたりの資金力ではリベラルアーツ・カレッジでトップ。  
隣接する4つのリベラルアーツ大との連合も強み。

#### Swarthmore College スワースモア大学(ペンシルバニア州)

アイビーリーグ大学と同等の質やレベルを有する  
名門大学群「リトル・アイビー」の1大学。  
卒業生が博士号を取得する割合は、理工系大学を除くと全米でトップレベル。

#### Wellesley College ウェルズリー大学(マサチューセッツ州)

アメリカ初の女性国務長官であるマデレーン・オルブライトや  
ヒラリー・クリントンを輩出した名門女子大学。  
MITとの単位互換プログラムがあり、MITの授業も受けられる。



# Elite Liberal Arts Colleges

## 注目のリベラルアーツ校

少数精鋭主義で幅広く学問を修め、文系・理系にまたがる真の教養を磨くリベラルアーツ・カレッジの名門私大。大学院へ進学する卒業生も非常に多い。

### 少数精鋭主義で実力を磨く

学生数3000人未満の大学が多く、教員1人あたりの学生数はわずか7~11人。教授の目がよく行き届き、学生一人ひとりの力を十分に伸ばすことができる。

### 「個」を高めて伸ばす

少人数のため、教室や課外活動で自然とリーダーシップが身につく。アドバイザー教員がマンツーマンで学習面・生活面を支え、潜在能力を引き出してくれる。

### 指導に情熱を注ぐ教授陣

総合大学以上に教育熱心な教授が多く、必ず教授自身が授業を受け持つ。個々の学生に対してきめ細やかに指導し、夜遅くまで学生たちと議論を楽しむことも。

### 他大学の授業も受講できる

小規模で、講座数やや限られる点を補うため、近隣の他大学と連携(コンソーシアムを形成)することで多種多様な科目を受講しやすくする制度をとる大学も散見される。

## 全米リベラルアーツ・カレッジ

順位	大学名	所在地
1	Williams College	マサチューセッツ州
2	Amherst College	マサチューセッツ州
3	Swarthmore College	ペンシルベニア州
4	United States Naval Academy	メリーランド州
5	Bowdoin College	メイン州
5	Pomona College	カリフォルニア州
7	Wellesley College	マサチューセッツ州
8	Carleton College	ミネソタ州
8	Claremont McKenna College	カリフォルニア州
8	United States Air Force Academy	コロラド州
8	United States Military Academy at West Point	ニューヨーク州
12	Harvey Mudd College	カリフォルニア州
12	Vassar College	ニューヨーク州
14	Barnard College	ニューヨーク州
14	Davidson College	ノースカロライナ州
14	Hamilton College	ニューヨーク州
14	Smith College	マサチューセッツ州
14	Wesleyan University	コネチカット州
19	Grinnell College	アイオワ州
19	Middlebury College	バーモント州
19	Washington and Lee University	バージニア州

出典：U.S.News：2025 Best National Liberal Arts Colleges Rankings

## グレー・バンクcroft基金 ~リベラルアーツ・カレッジ専門の奨学金~

リベラルアーツ・カレッジへの進学を希望する日本の高校卒業生を対象とした、返済義務のない奨学金。帰国者の就職も支援しており、各界へ優秀な人材を輩出している。

### 支給内容(2024年夏出発)

- 米国のリベラルアーツ大学に進学する者に対し、毎年8万米ドルを上限に4年間支給。(1名)
  - 奨学金2万米ドルと提携大学へ授業料全額免除推薦(各大学1名、計3名) DePaw University/Grinnell College/Union College
  - 提携大学へ授業料一部または全額免除の推薦(提携大学各1名、計5名)
  - ・ 下記の提携校の授業料一部免除へ推薦、加えて基金より年1万ドル4年間支給。 Knox College/Earham College/Lake Forest College
  - ・ 下記の提携校の授業料一部または全額免除へ推薦 The College of Wooster/Ohio Wesleyan University
- ※最新の情報はホームページ等でご確認ください。

お問い合わせ

<https://grew-bancroft.or.jp/>

## Universities in the US 総合力を養うアメリカの大学



アメリカの大学受験は、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。アメリカの大学の大部分は、Common ApplicationやCoalition Applicationと呼ばれる共通願書システムでオンライン上から必要な書類や質問を記入して出願する。州ごとに出願システムを持つ大学もある。

### 大学の特徴

- 日本と同じ4年制大学。
- 学部別の入試はなく入学後に専攻を決める。
- 2年制のコミュニティカレッジからの編入もポピュラー。
- 一般教養だけを学ぶ「リベラルアーツカレッジ」という大学も存在するほど、一般教養が重視され幅広い知識を総合的に身につける教育が徹底されている。
- 最初の2年は一般教養を学ぶ大学が多くを占めている。
- 研究やフィールドワークなどの機会が多い。
- 在学途中で専攻変更、副専攻、ダブル専攻、早期卒業、編入などが可能でとてもフレキシブル。

### 大学例

#### IVY Leagueが有名

- California Institute of Technology
- Harvard University
- Massachusetts Institute of Technology
- Princeton University
- Stanford University
- University of Chicago
- Yale University など

### 大学数

- 約4,700校

#### IVY Leagueとは

アメリカ東海岸にある名門私立8大学の通称。Brown University、Columbia University、Cornell University、Dartmouth College、Harvard University、Princeton University、University of Pennsylvania、Yale Universityで構成される。アメリカのみならず世界をリードする人材が集う大学である。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

## Universities in Canada 質の高いカナダの大学



カナダの大学受験は、アメリカなどと同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。カナダの大学は、大学のホームページから個人登録をし、オンラインで必要な書類や質問を記入して出願する。

### 大学の特徴

- 日本と同じ4年制大学。
- 教育の質が高く、ハイレベルな学力・英語力が求められる入試難易度が高い。
- 恵まれた自然環境で生活のしやすさや治安の良さから多くの留学生から人気。
- 大学在学中及び大学卒業後、最大3年間カナダで働く事ができる。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

### 大学例

#### The U15 Group of Canadian Research Universitiesが有名

- McGill University
- McMaster University
- University of British Columbia
- University of Montreal
- University of Toronto など

### 大学数

- 約90校

#### U15 Group of Canadian Research Universitiesとは

カナダの15研究大学の通称。University of Alberta、University of British Columbia、University of Calgary、Dalhousie University、Université Laval、University of Manitoba、McGill University、McMaster University、Université de Montréal、University of Ottawa、Queen's University、University of Saskatchewan、University of Toronto、University of Waterloo、University of Western Ontarioで構成される。研究費等が充実しカナダ国内最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

## Universities in UK 専門性を追求するイギリスの大学



イギリスの大学受験は、アメリカ同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。この他、A Levelを指定日に受験する方法もある。イギリスの大学は、UCASと呼ばれる共通願書システムでオンライン上から必要な書類や質問を記入して出願する。

### 大学の特徴

- 大学は3年制(学部によって3~6年)。
- 日本からの留学生は大学入学前に約1年間、専門知識の基礎を学んで、計4年で卒業。(インターナショナルバカロレアなどの学生は、成績によるが直接大学に入学が可能)
- 一般教養課程がなく、専門科目を重点的に学ぶ。
- 即戦力となる専門人材の育成に重点を置いた教育が特徴。
- 実学を重視した大学と研究を重視した大学がある。
- 国内の大学がほぼ国立大学で歴史のある大学が多い。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

### 大学例

#### Russell Groupが有名

- Imperial College London
- London School of Economics and Political Science
- University of Oxford
- University of Cambridge
- UCL など

### 大学数

- 約120校

## Universities in Australia 専門人材を育成するオーストラリアの大学



オーストラリアの大学受験は、アメリカなどと同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。オーストラリアの大学は、大学のホームページから個人登録をし、オンラインで必要な書類や質問を記入して出願する。紙で提出する場合には、日本のエージェントが書類提出窓口になっている大学もある。

### 大学の特徴

- 大学は3年制(学部によって3~6年)。
- 日本からの留学生は大学入学前に約1年間、専門知識の基礎を学んで計4年で卒業。(インターナショナルバカロレアなどの学生は、成績によるが直接大学に入学が可能)
- 専門人材の育成に重点を置いた教育が特徴。
- いわゆる短大という大学は存在しない。
- 公立総合専門学校(TAFE・College・Polytechnic)からの単位互換で大学編入が可能。
- 大学卒業後、2年間働くVISAを取得できる。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

### 大学例

#### Group of 8が有名

- Australian National University
- Monash University
- University of Melbourne
- University of New South Wales
- University of Queensland
- University of Sydney など

### 大学数

- 42校

### Russell Groupとは

イギリスの24研究大学の通称。University of Birmingham、University of Bristol、University of Cambridge、Cardiff University、Durham University、University of Edinburgh、University of Exeter、University of Glasgow、Imperial College London、King's College London、University of Leeds、University of Liverpool、London School of Economics and Political Science、University of Manchester、Newcastle University、University of Nottingham、University of Oxford、Queen Mary University of London、Queen's University Belfast、University of Sheffield、University of Southampton、University College London、University of Warwick、University of Yorkで構成される。研究費や助成金等が充実しイギリス国内最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

### Group of 8とは

オーストラリアの主要8研究大学の通称。Australian National University、University of Adelaide、University of Melbourne、Monash University、University of New South Wales、University of Queensland、University of Sydney、The University of Western Australiaで構成される。研究費等が充実しオーストラリア国内で最高峰の大学として知られる。

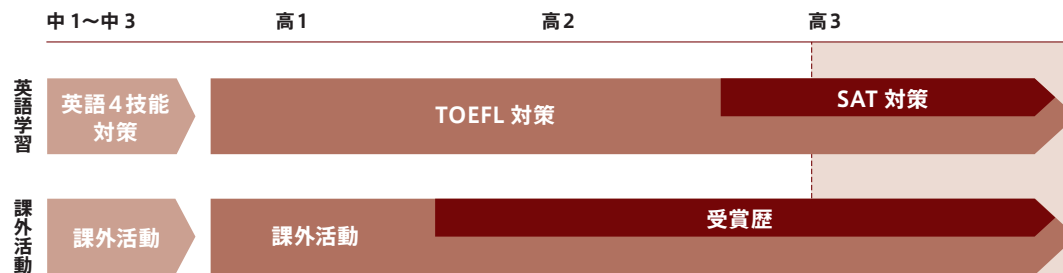
※上記の情報は変更になる可能性があります。

# Prepare for World Top Universities

## 世界の大学は、 多面的総合的評価

世界トップ大の多面的総合的評価への準備は計画的に。学校において良い成績を維持することは当然の事ながら、それに加えて課外活動やTOEFL®/SAT®の勉強、また、エッセイ執筆や推薦状の依頼、財政証明書の準備など、計画を立てて進める必要がある。特に、TOEFL®/SAT®のスコアは出願資格となる上に、スコア取得まで相当の時間がかかる。また、高3の夏休み以降は、国内の受験対策も本格化するので対策を早めに始めたい。

### ■中1～高3の英語学習・課外活動のスケジュール（一例）



### ■高3の出願スケジュール（一例）



## 入学審査の重点ポイント

全世界から優秀な頭脳を一堂に集め、その多様な力で学内を活性化することが名門大学の基本スタンスである。そのため学力だけで合否を決めることはない。出願時のエッセイや面接をもとに学業に加えて課外活動でも実績を上げ、強烈な熱意と高いモチベーション、創造力に秀でたタフな人物を見極める。それをいかにして審査官に訴えるか、まずは自分の強みと課題を整理してみよう。



### Balance

#### 「学力+人間力」の総合評価

学業成績、SAT®やTOEFL®などのテストスコア、願書(特に課外活動や受賞歴など)、エッセイ、面接でのコメントなどが総合的に判断され、入学するに相応しい人物が特定される。トップクラスの大学では、SATが満点でも不合格となるケースもある。

### Passion

#### 入学へのあくなき「熱意」

この大学に入りたい、という強い熱意を示すこと。事前に大学を訪問したり、全科目の講義要項に目を通したりして、明確な動機と必然性をもってエッセイや面接で志望理由を語りたい。自分に合った大学かどうか見きわめるためにも、ぜひ大学訪問を。

### Creativity

#### きわだつ「個性」「独創力」

オールラウンドに秀でるだけでは決め手に欠ける。何らかの全国大会や世界大会での実績など、特別に目を引く強みがほしい。入学審査官は1万通、2万通もの願書に目を通す。しかも、出願者はみな精鋭ぞろい。凡庸な人物では選ばれる理由がない。

### Contribution

#### 期待感を高める「貢献度」

自分の目標に向かって走るだけでは不十分。その大学にフィットした、大学にとって貢献度の高い人物になりえるかどうか大事なポイント。「入学後、どんな貢献ができるか」といった質問が、願書やエッセイの課題に織り込まれているのもそのためだ。

### Leadership

#### 社会を変えていく「原動力」

社会を動かす人物こそが好まれる。学業や課外活動での優れた実績に加え、それが周囲にどれだけ認められ、問題解決に役立ったか、その影響力の強さが評価される。リーダーの地位だけでなく、何をすることが大事だ。

#### トップ大が求める人物像

ハーバード大のサイトには「リーダーシップ」「コミュニティ貢献」などに加え「学生同士で互いに、または教授をも教育する人——周りの人をインスパイアする人」スタンフォード大のサイトには「学業優秀」「知的バイタリティ」「好奇心と熱意」などの言葉が散見される。参考にしたい。

# Application Requirements

## 出願に必要な書類

必要な書類は、国や大学ごとに異なることがあるが主に願書、成績証明書、エッセイ、推薦状、テストスコアがある。これらの中には、自分自身で用意する書類、学校の先生に用意してもらう書類、TOEFL®やSAT®の実施団体から提出してもらう書類などがある。また、保護者が用意する財政能力証明書が必要になる場合がある。

※ここでご紹介している内容は例です。詳細は必ず大学のオフィシャルページでご確認ください。

願書 Application Form	オンライン出願が主流。個人情報を入力をする。世界のトップ大学の多くが志望する大学・専攻に関することや、高校時代の学業成績、受賞歴、就労歴、英語テストスコア、課外活動歴などの記入の指示などがある。
成績証明書 Transcripts	高校に依頼して英文の成績証明書を発行してもらう。進路指導教員や担任教員にお願いしよう。学校からの直送を求める大学も多い。途中で転校している場合は、前に在籍した学校の書類も必要。
エッセイ Essay	志望動機や留学への熱意、将来設計などを通じて自分をアピールする。エッセイでは国や大学ごとに文字制限などがあり要件に合わせたエッセイを書く必要がある。その大学について十分にリサーチしたうえで、志望動機を明確にして作成したい。
推薦状 Recommendations	出願者の資質や能力、人間的魅力について客観的に伝える。高校の担任や進路指導の教員、主要教科の教員などに依頼できるよう日頃からのコミュニケーションを大切にしたい。大学によってはさらに指定があるので要注意。国内大向けの推薦状以上の具体性が求められるので、自分のことをよく把握している先生に作成してもらうのがポイント。さらに、特筆すべき点があれば、高校以外のしかるべき人物に外部推薦状を作成してもらってもよい。
テストスコア Test Scores	大学ごとに指定のテストを受験。そのスコアを実施団体から志望校に送ってもらう。 <ul style="list-style-type: none"><li>●SAT®やACTでは、スコア・チョイス(受験生側で提出するスコアを選べる制度)が導入されているが、過去に受験したすべてのスコアの提出を求め、各セクションの最高点で評価する大学が多い。</li><li>●通常出願の場合、1月受験のスコアも提出可能だが、できれば年内の受験で高得点を取り、他の出願書類とともに提出しておきたい。</li><li>●TOEFL®では、iBT(Internet-based Test)で最低100点を要求する大学が散見されるので、早めにこれを超えるよう対策を立てたい。</li></ul>
高校教員による学生評価 SR/CR/TE/MR	進路・担任や各教科教員がオンラインで提出する評価フォームのこと。 <ul style="list-style-type: none"><li>●SR(School Report)/CR(Counselor Recommendation):進路指導教員または担任が作成し、成績証明書、学校案内、推薦状も添付する。</li><li>●TE(Teacher Evaluation):生徒に依頼された教員(2名)がそれぞれ作成するフォーム。推薦状もそれぞれ添付要。</li><li>●MR(Mid Year Report):出願後の学業成績を反映した中間報告書。</li></ul> ※上記のほか、Final Reportなども必要に応じて提出要。
学校紹介 School Profile	高校(SR作成の先生)に、英文の学校紹介の作成を依頼する。単に日本語の高校案内を英訳するのではなく、基本情報に加え、難関大への合格実績など、学校のPRとなるような内容を追記してもらうとよい。



## テストスコア、 受験書類の目安

世界の大学を受験するには、様々な書類の提出を求められることが多い。世界トップの大学を目指す場合には全ての書類で良い評価を得る必要がある。自分の力で努力ができる課外活動、受賞歴、成績、エッセイ、テストスコアは計画を立てしっかりと準備をしよう。特に学校の成績は重要であるため、日々の学校の学習や中間や期末テストは、しっかりと高得点を取ってほしい。

英語テストの詳細は  
オフィシャルページで確認しよう。

TOEFL

<https://www.ets.org/toefl>

IELTS

<https://www.ielts.org>

SAT

<https://collegereadiness.collegeboard.org/sat>

ACT

<http://www.act.org>

	オンライン願書		成績証明書		提出資料		テストスコア		
	課外活動	受賞歴	GPA	IB Points	エッセイ/ 志望理由	推薦状	TOEFL iBT	IELTS	SAT/ ACT
Top Prestigious University	◎	◎	4.5～5.0	43+	◎	◎	110+	8.0+	90%+
TOP University	◎	◎	4.0～4.5	30+	◎	◎	100+	6.5～7.0	80%+
University	○	○	3.5～4.0	25+	○	○	90+	6.0～6.5	—
Foundation Course Community College etc	△	△	3.0～4.0	—	△	△	60-80+	5.0～6.0	—

※上記スコアは、あくまで目安となります。海外大学は、提出書類の総合評価になります。

※◎とても重視する ○重視する △あまり重視しない

# Honors and Extracurricular Activities

## 課外活動を アピールしよう

共通願書などには、中学3年生から高校3年生の出願時点までの課外活動に関する受賞歴を記載する欄がある。これをすべて埋めなければ、トップスクールに合格することはできない、ということでは決してない。そうしたなかで、少しでも自分をアピールするのに大切なことは、活動の数や量もさることながら「質」である。質の高い活動歴がたくさんあればあるほど、入学審査官の目にとまりやすい。ここでは、願書に見られる課外活動の代表的なタイプと例をまとめているので参考にしてほしい。特に活動例はここに挙げた以外にも、中高生が参加できるものが多々あるので調べてみよう。

### 課外活動の主なタイプと活動例

タイプ／共通願書の英語表記	例
高校の組織活動(部活動は除く)／School Spirit	生徒会、委員会、クラスでの活動など。 ※校内の運動部やクラブでの活動は、次のAthleticsに含む。
運動部:(準)レギュラー／Athletics: JV/Varsity 運動クラブ／Athletics: Club	運動部や運動クラブでの活動。 ※Varsityはレギュラー、JV (Junior Varsity) は準レギュラーの意。
アカデミック／Academic	学問レベルを競う各種オリンピックや模擬国連、エッセイコンテストなどアカデミックな大会等への出場歴。サマースクールやキャンプ等への参加も含む。 ※大会での受賞歴は、Honors(次ページ参照)の欄に書くのが一般的。
科学、数学／Science, Math	科学や数学系のキャンプやプログラムへの参加、大学等での実験活動体験など。
外国語／Foreign Language	校内でのESS活動、外国語学習歴など。
海外交流／Foreign Exchange	海外交流イベントへの参加、運営など。
ディベート、スピーチ／Debate, Speech	ディベート大会、スピーチ・コンテストへの参加など。 ※Academicの模擬国連はこちらに記載しても可。
コミュニティ活動(ボランティア)／ Community Service (Volunteer)	各種ボランティア活動(NPO等でのボランティアも可)。 ※将来の職業に関連するボランティア活動はCareer Orientedの項に記載するほうがよい。
キャリア志向／Career Oriented	インターンの経験、NPO等での活動歴など。
ジャーナリズム、出版／Journalism, Publication	出版物等の記事作成、寄稿など。
音楽: 楽器(演奏)／Music: Instrumental 音楽: 歌／Music: Vocal	楽器の習い事、演奏歴、合唱歴など。
美術／Art	美術に関する活動全般。校内イベントのパンフレット制作(デザイン等)なども可。
その他のクラブ、活動／Other Club, Activity	上記のどの分類にもあてはめにくいものはここに記入する。

★アカデミックな大会などに出場して入賞した場合は、受賞欄(Honors)にも記載できる。

★自分の活動が複数のタイプにあてはまる場合は、どれに記入したほうがよりアピールできるかを考えよう。

## アカデミックな 受賞歴もPR

共通願書などには、課外活動歴と同様に、中学3年生から高校3年生の出願時点までの間に獲得したアカデミックな受賞歴について記載する欄もある。トップスクール合格に、国際大会や全国大会での受賞が必ずしも求められるわけではないものの、そうした経歴があれば当然、自己PRの材料が増える。では、名門校への出願者は実際にどのような大会で賞を手に行っているのだろう。主なタイプと具体例を右にまとめてみた。もちろん、ここに挙げた以外にも、中高生が参加できるコンテストやプログラムはたくさんあるので調べてみよう。

## 奨学金にもチャレンジを

日本から海外の大学に出願する高校生でも応募できる奨学金が、ここ数年で増えてきている。支給額が高いこともあり「狭き門」ではあるが、挑戦しておきたい。(p.26参照)

### 受賞歴の主なタイプと受賞例

※下記大会等の名称は通称。参加資格などの詳細は各プログラムのホームページ等で確認のこと。参加資格に制限がある場合もあるので注意。

タイプ	例
各教科系のオリンピック	「数学オリンピック」「物理オリンピック」など、数学・物理・化学・生物・地学・地理の各教科でそれぞれオリンピックが開催されているほか、哲学・情報オリンピックなどもある(国内上位入賞者は世界大会に出場可)。
英語力の比重の高い大会	英語ディベート大会(全国高校生英語ディベート大会ほか) 英語スピーチコンテスト(チャーチル杯、ホノルル市長杯ほか) 英語エッセイコンテスト 模擬国連(高校模擬国連ほか) ※日本語での弁論大会、論文コンクール等での受賞なども記載可。
その他のアカデミックな大会	ビジネスコンテスト、プレゼンテーションコンテスト、複数のスキルをすべて英語で競う大会(World Scholar's Cupほか)など。
国際会議 国際交流プログラム	高校生を対象としたアカデミックな国際交流プログラムや国際会議に、国内での選考を経て、日本代表として参加した場合なども記載可。
奨学金プログラム	グルー・バンクロフト基金の奨学金(p.9参照)やTOEFL奨学金など、さまざまな機関が支給する選考を伴う奨学金プログラムのほか、高校が成績優秀者に対して支給する奨学金などがある。

★入賞ができなかった場合でも、願書の課外活動欄に記載することは可能。また、大会への参加資格を得たにもかかわらず、都合で参加できなかった場合も記載してよい。

## アメリカの大学のエッセイ

### エッセイ対策と 自己分析

エッセイは合否を分かつ重要な出願書類。過去の経験から得られた価値観を背景に、志望理由や将来の目標を意識して自分自身のドラマを熱く語る必要がある。そのためには徹底した自己分析が欠かせない。自分は何を求め、どう生きる人間なのか。その行動特性と価値基準をよく見極めてこれからの課題と対策をあぶり出してほしい。自分が将来なすべきことを実現するための道、それと志望校に求めることが結びついたとき大きな説得力が生まれるはずだ。

### Common App Essay (共通願書のエッセイ)

以下の7つから1つを選び、250~650語で書く。

- 1 Some students have a background, identity, interest, or talent so meaningful they believe their application would be incomplete without it. If this sounds like you, please share your story.
- 2 The lessons we take from obstacles we encounter can be fundamental to later success. Recount a time when you faced a challenge, setback, or failure. How did it affect you, and what did you learn from the experience?
- 3 Reflect on a time when you questioned or challenged a belief or idea. What prompted your thinking? What was the outcome?
- 4 Reflect on something that someone has done for you that has made you happy or thankful in a surprising way. How has this gratitude affected or motivated you?
- 5 Discuss an accomplishment, event, or realization that sparked a period of personal growth and a new understanding of yourself or others.
- 6 Describe a topic, idea, or concept you find so engaging it makes you lose all track of time. Why does it captivate you? What or who do you turn to when you want to learn more?
- 7 Share an essay on any topic of your choice. It can be one you've already written, one that responds to a different prompt, or one of your own design.

#### ★付加情報記入欄 (オプション)

上記に加え、以前からあった付加情報 (Additional Info) 欄に加え、コロナ禍や自然災害の自分への影響があれば説明してよい欄が新設されたことも。

### Supplement Essay (個別大エッセイ)

#### ★ハーバード大学

Harvard 課外活動詳説、志望動機、オプション等が課される。

#### ■ 課外活動詳説 ※50~150語

Please briefly elaborate on one of your extracurricular activities or work experiences. (50-150 words)

#### ■ 志望動機 ※50語以内/アメリカ・カナダ以外の出願者のみ。

For International Students: What specific plan do you have, if any, for using the education you hope to receive?

#### ■ Additional Essay ※以下のエッセイを追加してもよい。語数指定なし。

- 1 Unusual circumstances in your life
- 2 Travel, living, or working experiences in your own or other communities
- 3 What you would want your future college roommate to know about you
- 4 An intellectual experience (course, project, book, discussion, paper, poetry, or research topic in engineering, mathematics, science or other modes of inquiry) that has meant the most to you
- 5 How you hope to use your college education
- 6 A list of books you have read during the past twelve months
- 7 The Harvard College Honor code declares that we "hold honesty as the foundation of our community." As you consider entering this community that is committed to honesty, please reflect on a time when you or someone you observed had to make a choice about whether to act with integrity and honesty.
- 8 The mission of Harvard College is to educate our students to be citizens and citizen-leaders for society. What would you do to contribute to the lives of your classmates in advancing this mission?
- 9 Each year a substantial number of students admitted to Harvard defer their admission for one year or take time off during college. If you decided in the future to choose either option, what would you like to do?

10

Harvard has long recognized the importance of student body diversity of all kinds. We welcome you to write about distinctive aspects of your background, personal development or the intellectual interests you might bring to your Harvard classmates.

※上記以外に、オプションだが additional intellectual activities を記載する欄もある。

#### ★イェール大学

志望動機、エッセイ、および複数の小問が課される。

#### ■ 志望動機 ※50語以内/アメリカ・カナダ以外の出願者のみ。

Tell us about a topic or idea that excites you and is related to one or more academic areas you selected above. Why are you drawn to it? (200語以内)

What is it about Yale that has led you to apply? (125語以内)

#### ■ Additional Questions ※35語以内

- 1 What inspires you?
- 2 Yale's residential colleges regularly host conversations with guests representing a wide range of experiences and accomplishments. What person, past or present, would you invite to speak? What would you ask them to discuss?
- 3 You are teaching a new Yale course. What is it called?
- 4 What is something about you that is not included anywhere else in your application?

#### ■ Essays ※以下から1つ選ぶ。400語以内。

Yale carries out its mission "through the free exchange of ideas in an ethical, interdependent, and diverse community." Reflect on a time when you exchanged ideas about an important issue with someone holding an opposing view. How did the experience lead you either to change your opinion or to sharpen your reasons for holding onto it?

Reflect on a time when you have worked to enhance a community to which you feel connected. Why have these efforts been meaningful to you? You may define community however you like.

## ★プリンストン大学

エッセイ、課外活動詳説、複数の小問が課される。

### ■ Writing Questions ※250 語程度。

1.) At Princeton, we value diverse perspectives and the ability to have respectful dialogue about difficult issues. Share a time when you had a conversation with a person or a group of people about a difficult topic. What insight did you gain, and how would you incorporate that knowledge into your thinking in the future?

2.) Princeton has a longstanding commitment to service and civic engagement. Tell us how your story intersects (or will intersect) with these ideals.

### ■ 学位別エッセイ ※以下から1つ選ぶ。

For A.B Degree Applicants or Those Who are Undecided:

As a research institution that also prides itself on its liberal arts curriculum, Princeton allows students to explore areas across the humanities and the arts, the natural sciences, and the social sciences. What academic areas most pique your curiosity, and how do the programs offered at Princeton suit your particular interests? (350 語程度)

For B.S.E Degree Applicants:

Please describe why you are interested in studying engineering at Princeton. Include any of your experiences in, or exposure to engineering, and how you think the programs offered at the University suit your particular interests. (350 語程度)

### ■ 課外活動詳説 ※150 語程度。

Activities: Please briefly elaborate on one of your extracurricular activities or work experiences that was particularly meaningful to you.

### ■ More About You ※75 語以内。

- 1 What is a new skill you would like to learn in college?
- 2 What brings you joy?
- 3 What song represents the soundtrack of your life at this moment?

## ★スタンフォード大学

エッセイ、および複数の小問が課される。

### ■ Short Questions ※50 語以内。

- 1 What is the most significant challenge that society faces today?
- 2 How did you spend your last two summers?
- 3 What historical moment or event do you wish you could have witnessed?
- 4 Briefly elaborate on one of your extracurricular activities, a job you hold, or responsibilities you have for your family.
- 5 Name one thing you are looking forward to experiencing at Stanford.

### ■ Short Essays ※すべて100～250 語以内。

- 1 The Stanford community is deeply curious and driven to learn in and out of the classroom. Reflect on an idea or experience that makes you genuinely excited about learning.
- 2 Virtually all of Stanford's undergraduates live on campus. Write a note to your future roommate that reveals something about you or that will help your roommate — and us — know you better.
- 3 Tell us about something that is meaningful to you and why.

## ★MIT (マサチューセッツ工科大学)

- 1 Pick what field of study at MIT appeals to you the most right now, and tell us more about why this field of study appeals to you. (100 語以内)
- 2 We know you lead a busy life, full of activities, many of which are required of you. Tell us about something you do simply for the pleasure of it.
- 3 Describe the world you come from (for example, your family, school, community, city, or town). How has that world shaped your dreams and aspirations?

4 MIT brings people with diverse backgrounds and experiences together to better the lives of others. Our students work to improve their communities in different ways, from tackling the world's biggest challenges to being a good friend. Describe one way you have collaborated with people who are different from you to contribute to your community.

5 Tell us about a significant challenge you've faced (that you feel comfortable sharing) or something that didn't go according to plan. How did you manage the situation?

※2～5は、200 語程度。

## ★コロンビア大学

### ■ Writing Questions

- 1 List the titles of the books, essays, poetry, short stories or plays you read outside of academic courses that you enjoyed most during secondary/high school. (75 語以内)
- 2 We're interested in learning about some of the ways that you explore your interests. List some resources and outlets that you enjoy, including but not limited to websites, publications, journals, podcasts, social media accounts, lectures, museums, movies, music, or other content with which you regularly engage. (125 語以内)
- 3 Why are you interested in attending Columbia University? (200 語以内)
- 4 A hallmark of the Columbia experience is being able to learn and live in a community with a wide range of perspectives. How do you or would you learn from and contribute to diverse, collaborative communities? (200 語以内)
- 5 In Columbia's admissions process, we value who you are as a unique individual, distinct from your goals and achievements. In the last words of this writing supplement, we would like you to reflect on a source of happiness. Help us get to know you further by describing the first thing that comes to mind when you consider what simply brings you joy. (35 語以内)
- 1 For applicants to Columbia College, please tell us what from your current and past experiences (either academic or personal) attracts you specifically to the areas of study that you previously noted in the application.

※以下は志望プログラムに応じて、選択するもの

## イギリスの大学のエッセイ

イギリスの出願において Personal statement と呼ばれるエッセイは非常に重要だ。最大 47 行、1000～4000 文字以内で志望理由、自分の学びたい学問へのパッション、スキル、経験、課外活動などをアドミッション担当官へアピールする必要がある。オンライン出願システムの UCAS では、エッセイの書き方の動画もアップされている。エッセイを書く前に動画をしっかり確認したい。

### Preparing your personal statement

準備  
自己分析

ポイント  
整理

文字制限に  
注意して書く

文法、スペルミス  
をチェック

### Personal statement の重要なポイント

- なぜあなたは英国で勉強したいのか?
- なぜあなたは特定のコースや科目を勉強したいのか?
- 学問への情熱はあるか?
- どんなスキルや経験があるか?

### Personal statement の注意点

- 共通願書のため、選択した全大学に同じ Personal statement が送付される。そのため、大学名を言及しないように注意しよう。
- 文字数制限があるため、アドミッション担当官に自分の良さをしっかり伝え、優秀な候補者であることをアピールする必要がある。

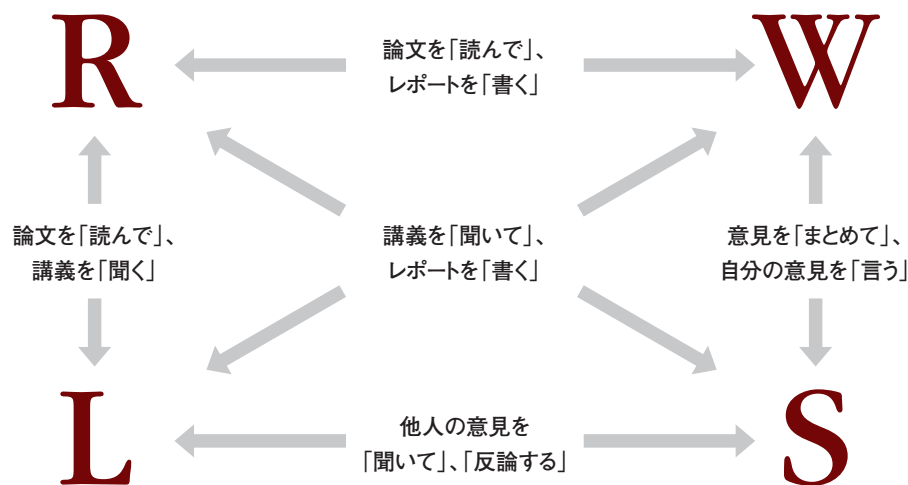
## Application Essay for UK Universities

## 試験対策トレーニング法

英語力判定テストのTOEFL®と大学進学適性テストのSAT®。これらの試験で9割を獲得しなければ、名門校への合格はおぼつかない。それには小手先の試験対策では不十分。英語の4技能を高めることはもちろん、ネイティブにも匹敵するほどのコミュニケーション能力を磨く必要がある。深く速く思考する力と豊かな感性を早い時期から鍛えよう。

### 英語4技能

海外のトップ大学の講義を理解し、ついていくには、英語4技能だけではなく各技能をリンクさせた力が必要になる。英語の論文を読んで講義を聞いたり、講義を聞いて他人の意見に反論したり、テキストを読んでレポートを書いたりする力が必須になる。そのため、日々の生活の中で、英字新聞、興味のある分野の論文や雑誌等英語の文献に触れ、意見をまとめたり、伝えたりするトレーニングをしていくと良い。





## Thinking & Feeling

### 思考を深め、感性を磨くトレーニング

「TOEFL®で100点」の目標に手が届いても「SAT®9割」の壁はまだ越えられない。次の高みに到達するための決め手、それが「思考力」と「感性力」の底上げだ。

#### Thinking

### 速く深く、 英語らしく考える力

日本語で考え、それを英語に置き換えて書いたり話したりするのはニュアンスの違いを埋められず、アウトプットにも時間がかかる。英語で考え、そのまま表現する力をつける必要がある。

#### Feeling

### 言葉を味わい、 感じとる力

ネイティブと対等に渡り合えるようなコミュニケーション能力を身につけるには、言葉の微妙なニュアンスや行間を読む力、いわば文学を味わうような感性と、それを表現する能力が必要だ。

ココを磨く！

#### 発想の転換で「英語脳」をつくる

日本語と英語では、物事を考えるときの言葉の順序が違う。例えば、日本語では「のどが渴いた」から「水が飲みたい」と発想する傾向にあるが、英語では逆に「水が飲みたい」と目的が先に立ち、理由「のどが渴いたから」は後ろにまわる。この語順を常に意識した言葉選びを心がけることが大切。

ココを磨く！

#### 想像力と語彙力をきわめる

同じ単語やフレーズでも、使われる状況によっては何通りにも意味が違ってくる。それらを感じとり、使い分けるためには大量の英文にふれ、読み、書き、話し、書く練習を毎日欠かさないこと。まずイメージを思い描き、それに合致した単語を探して表現する。そのためにも膨大な語彙を蓄えたい。

## SVOCM Training

### 得点力を高める5つの特訓ターゲット

思考と感性の力を高めるものは、的を射たトレーニングと目標設定である。5つのポイントを常に頭に置いて、たゆみなくメリハリのある学習を続けたい。

### S

Speed

「速さ」を追求する

スピードは高得点への最大の武器。常に「倍速」を意識し、素早く考え、理解し、アウトプットする訓練を。ただし、スピーキングではジョギングするように緩めの速さで、よどみなく話すのがコツ。

### V

Vocabulary

「語彙力」を伸ばす

ThinkingとFeelingの土台となり、速さを支えてくれるのが確かな語彙力。SATで満点近くに到達するには、2~3万語の知識が必要だといわれる。熟語・慣用語も忘れずに。

### O

Organization

「構成力」を高める

単に文法力ではなく、英文の構造、文章構成に対する理解を徹底して深める。全体構成がわかれば、次に現れる言葉の意味合いを先読みして、速く深く理解することができる。

### C

Concentration

「集中力」を磨く

TOEFL®もSAT®も数時間におよぶ長丁場。これを持ち切るには、緩急メリハリのある集中力が必要。日頃の勉強でも、適度にリラックスを織り込んだ生活を心がけること。

### M

Method

「方法論」を知る

高得点をマークするには、それなりの試験の受け方や答え方のテクニック、また普段の勉強法、考え方のコツがある。愚直に練習を繰り返す、その勘どころを体得しよう。

# Preparation for the Exams

## TOEFL® Test TOEFL®の基本対策

### 英語力判定基準の国際スタンダード

世界160か国13,000以上の大学・大学院が留学生の入学審査に用いる国際的なテスト。インターネット受験によるテスト(iBT)で英語コミュニケーション能力を測る。毎年複数回実施。スコアは2年間有効。

※2024年7月時点。  
※ここでご紹介している内容は変更になる場合があります。

セクション／配点	出題内容・時間	基本対策
Reading 30点	[問題文]約700語×2パッセージ [設問数]各10問 [時間]35分	1分間200～400語を目標に、倍速を意識して速読速解の力を鍛える。学術的な長文を毎日欠かさず読むと同時に、小説や雑誌にも親しみ「ネタ」を仕入れることが大切。
Listening 30点	[講義] [問題数]3題 [設問数]各6問 [会話] [問題数]2題 [設問数]各5問 [時間]36分	対策の要は3つ。①就寝前に自分のレベル以上の英文を必ず聞く。②1～3分の短い英文を聞き、シャドーイングをする。③短いセンテンスを3段階の速度で何度も繰り返し聞く。
Speaking 30点	全体的問題数：4問 [Independent Task] [問題数]1問 [Integrated Tasks] [問題数]3問 [時間]16分	スピーチによく見られる決まり文句や話の組み立て方のパターンを知り、説得力を高めるフレーズを数多く覚えること。「風邪→ひどい」など単語と単語のつながりを意識し、名詞と副詞を巧みに使って話す訓練を。
Writing 30点	全体的問題数：2問 [Integrated Task] [問題数]1問 [Academic Discussion Task] [問題数]1問 [時間]29分	読んで聞いて書く問題では、正しく理解しまとめる力を、設問に答える問題では自分の意見を書き表す力をつけること。すばやくアウトラインを組み立てるトレーニングを。

### Key for Success

## TOEFL®で高得点を取るために

### 1 問題を解くリズムをつかむ

TOEFL®は総計2時間にもおよぶ長丁場。出題形式や設問内容に十分に慣れておくことが大切だ。過去問題を集めたオンラインの模擬試験で問題を解くリズムをつかみ、自分の弱点を把握して早めに対策を立てよう。また、スコアは2年間有効で、このうち最も高い得点で出願できるので、本番の試験も繰り返し受験したい。

### 2 アカデミックな語彙を増やす

「英語で学ぶ能力」を測ることに重きを置くTOEFL®は、大学の講義やキャンパスでの会話に題材を求めた問題が数多く出される。日頃から日英両言語で学術的な文章に接し、さまざまな専門分野の知識と単語を仕入れること。ニュージーランドのビクトリア大学で開発されたAWL (Academic Word List)が役に立つ。

### 3 要点をメモに書き取る

TOEFL®では全セクションで試験中にメモを取ることが許されている。特にリスニングや、スピーキングとライティングの統合問題では、問題文を聞きながら重要な語句やポイントを逃さずメモに書き取ることが大切。

### 4 英語で要約する訓練を

試験は時間との勝負。速読速解が命だから、頭の中で英語を日本語に置き換えているようでは歯が立たない。普段から英語で読んだことを英語で書き留め、英語で聞いたことを英語で話すトレーニングを心がけたい。

★名門校の要求スコア [TOEFL®] ……100 / 120 (iBT)

要求スコア100はあくまでも目安。110点台にターゲットを定め、早めに対策を立てよう。

## Question Typeと型を把握

TOEFL®で高得点を取得するには、単語や文法などの基礎力はもちろんQuestion Typeの把握やアウトプットの型を身につけることが大切だ。これらを身につけることで、時間配分が難しいTOEFL®において効率よく情報収集を行い問題に解答していけるスキルが身につく。

### Question Typeの把握 Reading/Listening

ReadingとListeningではそれぞれ以下のKey Question Type(設問タイプ)がある。

#### Reading Question Types

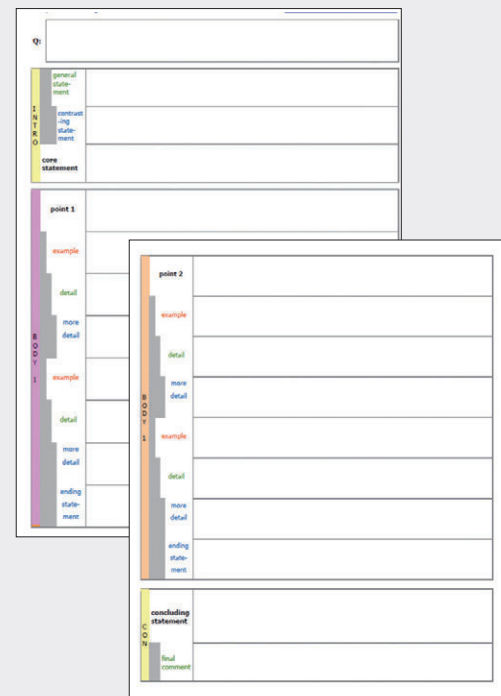
- 事実特定 (Fact Questions)
- 事実でない事特定 (Negative Fact Questions)
- 推察 (Inference Questions)
- 語彙 (Vocabulary Questions)
- 参照 (Reference Questions)
- 言い換え・簡略化 (Sentence Simplification Questions)
- 文挿入 (Text Insertion Questions)
- 著者の意図特定 (Rhetorical Purpose Questions)
- 散文要約 (Prose Summary Questions)
- 表・グラフ参照 (Table & Chart Questions)

#### Listening Question Types

- 主題特定 (Main Idea Questions)
- 詳細特定 (Detail Questions)
- 目的理解 (Function Questions)
- 態度理解 (Stance Questions)
- 推察 (Inference Questions)
- 構成 (Organization Questions)
- 内容理解 (Content Questions)

### アウトプットの型の習得 Speaking/Writing

SpeakingやWritingでは効果的なアウトプットをするうえで型の習得が必要になる。



## トップスクールが求める基礎学力の証

大学進学に適した学力を測る共通試験。難関大学では必須のところが多い。プラクティステストなどで十分に対策しておきたい。

## SAT

【注】試験会場が満席になる時期が早まっているので、早めに申し込みをしておくこと。

セッション 時間／配点		出題形式・内容	基本対策
Reading & Writing (800点)	[設問数] 54問 [時間] 64分 (32分モジュール×2)	<p>文脈を理解し文章を批判的に読む力など、論理的思考力を試す。</p> <p>[Passage-based Reading] 読解問題</p> <p>Readingの文章が短くなり、短文1つに対して1つの問題という組み合わせで出題される。また、表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。より適切な英文を作成する力や、文章を論理的に構成する力を測る。ライティングでも、表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。</p> <p>[Multiple Choice] 選択問題</p>	<p>出題される英文の論理構成や、文中の各パート間のつながりを深く読み取る力、主張の根拠を探すなどが求められる。精読・速読の訓練を積むと同時に、改訂版から出題される分野がより幅広いトピックをカバーするようになったため、さまざまな分野の英文に慣れること。また、表・グラフなどのデータ付きの英文にも普段から慣れておきたい。また、Module1の出来次第でModule2で出題される問題が変化するため、文中の語彙の、文脈の中で意味を把握する力などは引き続き求められるので、語彙力の増強もおろそかにしないこと。選択問題では、文法や文体の知識、簡潔な表現、文をつなぐ接続詞、フレーズや(セミ)コロなども含めた句読点の用法に関する理解などが問われる。各知識の習得はもちろん必要だが、さらに、音読などを通じて日常から英語のセンスを磨くこと。</p>
Math (800点)	[設問数] 44問 [時間] 70分 (35分モジュール×2)	<p>四則演算や代数、幾何などに関する基本的な処理能力を問う。</p> <p>[Multiple Choice] 選択問題</p> <p>[Student-produced Response] 記入問題</p> <p>※全てのセッションで計算機使用可</p>	<p>数学の比重は高いため、確実に得点できるようにしておきたい。日本の中学から高校程度の問題レベルだが、即答できる設問は少なく、問題文の正確な読み取りがより必要。デジタル版では、全てのセッションで計算機の使用が可能だが、数学用語は英語で必ず覚え、満点を目指そう。</p>

★名門校の要求スコア [SAT®] …………… **1500** / 1600 (SAT)

Subject Testsはほとんどの受験者が得意科目を選択するので、受験科目はすべて満点(800点)を目指したい。

※2024年7月時点。  
※ここでご紹介している内容は変更になる場合があります。

## SAT®スコアの上限・下限について

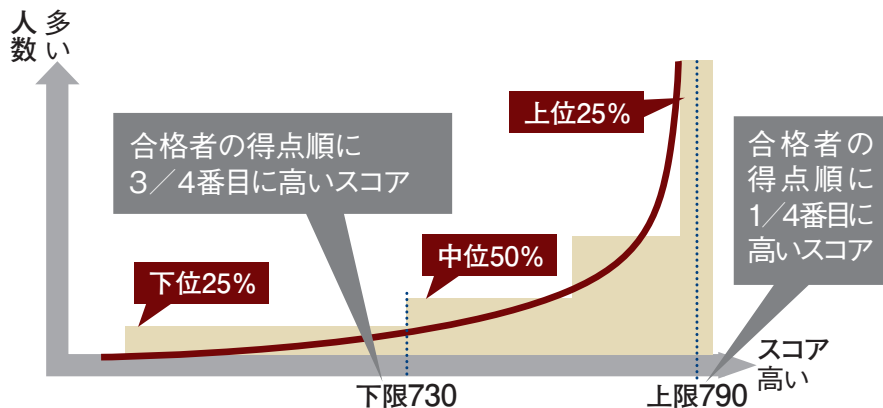
College Boardが公表している、入学審査合格者のSAT®スコアは、成績中位50% (Middle 50% of First Year Students) に位置する人の上限値と下限値で示されることが多い。つまり、上位合格者25%と下位合格者25%をあらかじめ除外し、残った中位クラスの最高スコア(上限)と最低スコア(下限)によって、セクションごとの平均的なスコアを表すのである。

例えば、ハーバード大学の場合、Evidence-Based Reading & Writing®の上限スコアは790、下限スコアは730だが、仮に合格者が1000人いるとして、250位で合格する学生の得点が790、750位の得点が730と予想されることがここからわかるのだ。

したがって、必ず730点を取らなければ合格できないわけではない。上限・下限のスコアはあくまでも合格への目安として考えよう。

※デジタル化前の名称。

### ◎世界トップ大学合格者のSAT®得点分布図の例(推定値/Reading & Writing)



※デジタル化前の推定値(目安)です。

## Key for Success

### SAT®で高得点を取るために

#### 1 受験テクニックを知る

SAT®の選択問題では誤答は減点されないで、できるだけすべての問題に解答することを心がけよう。

#### 2 「読解力・速読力」を磨く

個人差はあるが、SAT®においても日本人は他のセクションに比べてReading Testの得点率が落ちやすい。デジタル版に改訂され、各パッセージにつき1問のみ出題のため、従来と比べて各パッセージをより簡単に、より速く読み解くことができるようになった。ただし、「根拠を探す力」が問われる。また、難解な語の意味よりも、複数の意味を持つ平易な語が、与えられた文脈の中でどの意味を表すかなどを問う設問が出題されるので、図表問題も含めて、サンプル問題などでさまざまな文章を速く正確に読む訓練を積んでおこう。

#### 3 「文法力・ライティング力」を磨く

Writing Testについては、文法・語法や句読点などの知識を磨いておくことが重点ポイント。ただし、単なる知識としてだけでなく、その知識を踏まえて、英文を正確に書く訓練を積んでおく必要がある。Reading Testと同様、図表問題にも慣れておきたい。

#### 4 受験時期にもストラテジーを

SAT®でもTOEFL®と同様に、スコア・チョイス(複数回受験した場合、受験者が最も高いスコアだけを選んで志望校に提出する形式)が導入されているものの、依然として「各セクションの最高得点を見たいので、すべての受験結果についてスコアを送付してほしい」としている大学も多い。十分に実力をつけてから受験するのが得策だ。

# Scholarship / Financial Aid

## 奨学金について

近年、海外大学進学において様々な奨学金が設けられている。Scholarship という優秀な学生に給付される返済不要の奨学金や、Financial Aid と呼ばれる家庭の収入に応じて学費の補助を行うものもある。資金力のあるアメリカの私立の大学は、優秀な学生には奨学金を多く出してくれることで有名だ。しかし、奨学金を取得するのは簡単なことではない。

奨学金は、「返済する奨学金」と「返済不要の給付型奨学金」に分けることができる。「返済する奨学金」とは、金融機関、日本学生支援機構、日本政策金融公庫などから教育ローンを組む形で利子をつけて分割払いで返済をしていく。「返済不要の給付型奨学金」は下記の3つに分類される。

- 1 国、都道府県、市区町村が給付する Scholarship
- 2 企業、財団が給付する Scholarship
- 3 大学が給付する Scholarship と Financial Aid

Scholarship 取得をするために必要なこととは

一番大切なことは、その大学に入りたいというパッションである。審査の基準には、学校の成績、英語力、課外活動なども入ってくる。しっかりとした志望理由、将来のポテンシャルなどがチェックされる。

**奨学金の例** ※2024年7月時点。 ※内容は変更になる場合があります。最新情報および詳細は必ず各オフィシャルページをご確認ください。

### ◎柳井正財団海外奨学金

米国・英国トップレベルの教育機関への進学を志す日本人学生を対象に、4年間（米国）、又は3年間（英国）の授業料、保険料、寮費等、就学のために大学より請求される費用を支給する（40名程度）。

### ◎江副記念リクルート財団奨学金 （学術部門）

財団が指定する海外の大学・大学院等への進学希望者を対象に、年額上限 1000万円支給（8名程度）。

### ◎笹川平和財団奨学金

財団が指定する米国・英国の大学への入学許可を得た者で、秋に第1学年への入学を目指す者を対象に、4年間（米国）又は、3年間（英国）の奨学金を支給する（35名程度）。

### ◎孫正義育英財団奨学金

特定の学問専攻、研究、事業展開などを志している若者への支援を目的に、留学・研究等において生じる学費や生活費を支給。支援内容・金額・給付期間は選考過程で個別に決定（30名程度）。

★グループ・バンクロフト基金による奨学金もある（p. 9 参照）



# Getting a job

## 就職活動について

私たちが海外進学サポートをした生徒の約半数が現地の大学院や現地企業もしくは日系企業の海外支社に就職する。残りの半数は、日本に帰国し外資系企業や日本のグローバル企業に就職する。また、若干だが、他の国で活躍をしたり、自分の会社を立ち上げる卒業生もいる。しかし、海外大を卒業したからと言って就職が簡単であるわけではない。大学在学中にしっかりと学び、課外活動やインターンなどの経験を積むことも大切だ。就職活動では、大学で何をやってきたのかが問われる。

海外大学では、各国のリクルーターたちがグローバル人材を探している。大学や都市部では様々な就職フェアが開催される。下記は、日本企業が多く参加するフォーラムで毎年 1 万人が参加する。ライバルたちに差をつけるため 1 年生から顔を出す学生も少なくない。

### ボストンキャリアフォーラム

#### 世界最大級の日英バイリンガル就活イベント

企業の担当者に直接質問できるライブセミナーや、内定まで出る可能性のあるオンライン面接など、就活のどの段階の方でも活用できるイベント。

### 2024年参加企業一部抜粋

アクセンチュア、APPLE、アマゾンジャパン、イオングループ、伊藤忠商事、大塚製薬、外務省、経済産業省、KPMG ジャパン、シティグループ、住友商事、住友林業、世界銀行、SEGA、全日本空輸、ソニーインタラクティブエンタテインメント、ソニーグループ、ソフトバンク、チームラボ、TBS、デロイト、Nintendo、PwC、三菱商事、三井住友銀行、三井物産、三菱 UFJ 銀行、バンクオブアメリカ、ボストンコンサルティンググループ、モルガンスタンレー、リクルート…など

# VOICE

## GLC(現Route G) × Route Hで合格した先輩の声

※Global Learning Center (GLC)は、2024年秋以降Route Gとしてリニューアルしました。  
※掲載している名称・サービス内容などは受講当時のものです。

## Oxford, Imperial College London, UCL, Edinburgh, Manchester, Chicago

### 自分を知り表現するそのプロセスが 未来を切り拓く。

宮武 岳さん

Pearson College UWC卒

**合格校▶** オックスフォード大学/  
インペリアル・カレッジ・ロンドン/  
マンチェスター大学/ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン  
エジンバラ大学/シカゴ大学

**進学先▶** オックスフォード大学

### 最前線の研究がしたい。研究機関の規模や進度の差を感じ、海外大を受験。

#### —— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

高校1年生の時、偶然目にした動画がきっかけで量子計算技術に興味を持ち、物理学を専攻することを決めました。

同時期に米英加と日本の研究機関では規模や進度に差があることを知り、最前線での研究に携わるための一歩として海外進学を検討するようになりました。

#### —— 進学準備はどのように進めましたか？

立派な肩書きがつくような課外活動とは無縁の学校生活を送っていたこともあり、現実

的な選択肢として学業成績と専門への深い理解を重視する英国大学を進学先に決めました。高校2年生からカナダのボーディングスクールに転校し、英国大学から高校卒業資格として認められている国際バカロレア(IB)を取得することができました。オックスフォードの大学の入学審査における評価項目は専攻分野の筆記テストと面接が多くを占めています。テストに向けては高校での未修範囲を教科書を頼りに勉強し、直前期にはインターネットで公開されている過去問を解いて対策しました。

面接では学習してきた内容をもとに未知の問題について自分なりに考えを深める姿勢が重視されます。少しでもあやふやな分野については先生や友人と議論し理解を深めることに注力しました。

### 自分はどんなことが学びたいのか、何を知り、何を知らないのかを突き詰める。

#### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

私はUCASでの出願を終えてから米国の早期出願やUCへの出願の準備を始めたため、それぞれ1か月足らずでエッセイなどを書き終えなければなりません。そもそも英国大学用のPersonal Statementは比較的推敲の余地が少ないので、夏休みのうちから米国大学出願の準備を並行して進めておけばよかったと後悔しています。

これとは別に、IBのカリキュラムや海外大学の入学試験は、日本のそれに比べて進度や難易度で劣っていることもあります。そのため、大学入学において戦略的になるあまり自分の専門性が欠如していると感じ、もどかしくなることもありました。

#### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の専門分野についての知識や理解度を過信したり、あるいは実際よりいかに偽ったりしないよう注意を払いました。

英国の入学審査官はその分野の権威ですから、教科書の言葉をその意味を咀嚼せずに引用したのではすぐに見破られてしまいます。自分はどんなことを学びたくて、それは何を知ったから、あるいは何をまだ知らないからなのか自己分析しておくことは、エッセイに限らずその後の面接でも非常に重要です。

#### —— Route Hに入ってよかった点は？

自分の書いたエッセイの不明瞭な点や不自然な点を、先生方が丁寧に言語化して教えてくださいました。それまで自分の英語に合った癖や、欠けていた視点が日に日に改善さ

れるようになりました。こうした説明を受けることで、個々のエッセイを添削してもらう以上の学びを得ることができました。

—— **Global Learning Centerのサポートを受けてよかった点は？**

世界中の大学受験に関するノウハウが共有され、可否の予想やスケジュールを踏まえて緻密に戦略が練れるようになった点です。どのテストに向けて勉強し、どのエッセイに労力を割くべきか事前にイメージできたことで、大学受験に伴う不安が大きく軽減されました。また、出願締切が迫ると、Common appやUCASに何を入力するにも不明な点や不安が生じることがあります。そんな時に些細な質問にいち早く答えてもらったことは精神的に非常に大きな支えでした。

—— **後輩へのメッセージをお願いします。**

読者に響くようなエッセイが一朝一夕には書けないことは言うまでもないですが、学問においてはそれ以上に積み重ねが重要です。ですから、学びたいと思う学問がある学生の方は、今まで勉強してきたことに自信を持ち、目標を高く持って憧れの大学にチャレンジしてほしいと思います。

# VOICE

## Route Hで合格した先輩の声

### University of Cambridge, 東京大学

悔いを残さない選択をし、  
できることは全てやりきる。

Nさん

私立高校卒

合格校 ▶ ケンブリッジ大学/  
東京大学

進学先 ▶ ケンブリッジ大学

### 興味のある学問分野を新しい環境で 学べる海外大を受験。

—— **海外進学を考えたきっかけは何ですか？**

海外ドラマや洋画、洋書を通して英語をとにかく好きになったことが最初のきっかけでした。また、海外の方が興味のある学問分野の研究が進んでいると聞いたことや、全く新しい環境に身を置いて勉強してみたいという思いもあり、海外進学を考えました。

—— **進学準備や課外活動はどのように進めましたか？**

学校の勉強は怠らないようにしていました。課外活動は中高を通して興味のあることを色々やってみたというのが実際の所ですが、自分の中では、色々なことに手を出した結果、とことん極めることができたと言えるものがあまりなかったという反省があります。課外活動

の実績づくりが目的になってしまうとあまり成果をあげられず、逆に元々好きで続けていたものが実を結ぶということをもっと感じました。

## 地道な努力をやり切る、そして楽しむ。

### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

日本の大学と海外の大学を併願した上、自分があまり時間管理が得意ではないため、優先順位やメリハリの付け方に苦労しました。特に秋冬にそれが響いたという感覚があります。

### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

できることを全部やり切るということをまず第一に考えていました。ダメだったとしても悔いが残らないようにしたいという思いがあったからです。

### —— エッセイで心がけた点を教えてください。

自分の考えをできるだけ率直に表現することを意識しました。また、どのような興味がどこから出てきて、どのような過程を経て今の自分があるのかというストーリーに焦点を当てることも心がけました。

### —— Route Hグループのサポートを受けてよかった点は？

エッセイの添削を受けられたのがありがたかったです。また、奨学金の面接対策も非常に親身にサポートしていただけて感謝しています。

### —— 後輩へのメッセージをお願いします。

地道な努力を楽しむ、そして自分の選択を悔いを残さないようにすることが大事だとつくづく感じています。時には大変なこともあるかもしれませんが、お互い頑張ってください。応援しています。

# VOICE

## GLC(現Route G) × Route Hで合格した先輩の声

※Global Learning Center (GLC)は、2024年秋以降Route G としてリニューアルしました。  
※掲載している名称・サービス内容などは受講当時のものです。

## Columbia, U Penn & U Michigan

## 地方公立高校から、GLC+Route Hを 活用し、IVYリーグ2校合格

谷口友哉さん

愛知県立西春高校卒

合格校 ▶ コロンビア大学 /  
ペンシルバニア大学 /  
ミシガン大学

進学先 ▶ コロンビア大学

## 高3でも積極的に課外活動に取り組む

### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高2のAIG高校生外交官プログラムです。出会った仲間の様々な興味や考えに刺激される日々を過ごし、大学は多様性溢れる環境で学びたいと思いました。柔軟な教育、英語を話す環境、自己主張が求められる文化にも魅力と成長の機会を感じ、米国受験を決めました。

### —— 進学準備はどのように進めましたか？

高2の秋から本格的に海外受験を始めました。10月にベネッセのGlobal Learning Center(GLC)に入り、そのおかげで、高3の5月までにSAT®やTOEFL®で満足する点数

を取れました。今まで課外活動も書道と高校生外交官プログラムだけだったので、高3に入ってからアジアサイエンスキャンプや「知の探究講座」など、積極的に校外プログラムに参加しました。これができたのも早期の内にSAT®やTOEFL®を終えることができたからだと思います。高3の半ばからは奨学金、Early、UC系、Regularと、目の前にあることに一つずつ取り組んでいきました。学校では国内に向けて、家ではアメリカに向けてと場所に応じてやることを切り替えるようにしました。

## 情報不足を痛感し、早めに情報収集を行う

### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

地方在住ということもあり、必要な英語書類からCommon Applicationの埋め方まで知らないことだらけでした。調べたり、Route Hのスタッフの方より教えてもらった情報の中から整理して、家族や先生方に説明、お願いすることを繰り返しました。周りも初めての海外受験にも関わらず、自分の進路に理解を示してもらい、最後の最後まで温かくサポートして頂いたことがとても有難かったです。早めの情報収集、また家族と学校との情報共有は両方ともとても大切です。

### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

最終的に自分が納得した状態で出すということを大切にしました。そうすれば結果がどうであろうと後悔することはないと思ったからです。自分が最も力を入れていたエッセイのテーマがなかなか決まらず、出願直前の数日間で8回も題材を変えました。結果的にそのエッセイを出した大学には落ちてしまいましたが、自分の中で考えぬいた末にたどり着いた方向性だったため、気持ちよくその結果を受け止めることができました。

### —— Route Hに入ってよかった点は何ですか？

まずは共に海外進学を目指す仲間です。年末の大変な時期に、話せる友達がいなかったのは本当に心強かったです。また私は愛知に住んでいたため、実際に東京に行ったのは2回だけですが、Route Hで過ごした数週間が一番エッセイ執筆に打ち込むことができました。もちろん、志望校決定までのサポートやエッセイ指導もなくてはならないものでした。

# VOICE

Route Hで合格した先輩の声

## MIT, UCSD & UIUC

## ロボット製作等を強みにMITに早期合格。 併せて財団奨学金も取得

長島大来さん

渋谷教育学園幕張高校卒

合格校 ▶ MIT /  
UCサンディエゴ /  
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

進学先 ▶ MIT

## 成果の出ない時期もあきらめず、ロボットにこだわる。 助言者を増やすことも大切

### —— 海外進学を考えたいきっかけは何ですか？

小学校の時から考えていたので、違う環境は面白そうだな、という当たり前の事がまずはあったと思います。また、自分がやりたい生物模倣ロボットは明確に盛んな所が分かり、それが主にアメリカの大学だった、というのも大きかったです。

### —— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

中学の頃から生物模倣ロボットという明確な興味があったため、ロボット製作にひたすら取り組んでいる毎日でした。また、大会、発表会などの機会があると、勝つ、というよりは、可能な限り共有する、という目的で、どんなものでも必ず参加はしていました。高2

の時に学年通信に掲載されたサイエンス・メンター・プログラムに応募したことをきっかけに、東工大®のメンターの先生、JSECなどを紹介していただいたので、助言をしてもらえる人を出来るだけ増やす事がまず大切だと気づきました。高校の途中までは実績として認められる事はなかったものの、自分のこだわりを信じて、カブトムシロボットでやっと明確な結果が出ました。また、干潟でボランティアなど、ロボットとは関係がないものもするようにはしました。一つの事に集中しすぎても違う視点から見えなくなるので、ロボットから一歩離れるいい機会でした。 ※現在は東京科学大。

## 自分以外の人を書けそうな文章は必ず排除。 結果、個性的なエッセイが完成

### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

実際にアプリケーションを書く段階では、悩みすぎる、という畏にはまらないようにするのが最も大変だったと思います。短いエッセイを書くとなると、どうしても細かいところにこだわりたくなり、逆に大まかな流れが見えなくなって、文章がうまくてもエッセイ全般はよくない、という事が良くありました。自分がどんなに好きな言い回しや内容でも、消さないといけない時は消すことが大切だと思います。

### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

SAT®や成績などの絶対的な評価以外のところは、自分以外の人を書けそうな文章は必ず排除、という目的で臨みました。こうすると、自分が書いたものを全部消すのが何回も繰り返されたのですが、最終的にはとても具体的で個性的なものができ上がったと思います。

### —— Route Hのサポートでよかった点は？

自分で自分のエッセイを読むだけでは、明らかな事や、逆にわかりづらい事を見つけるのは不可能で、これを客観的な視点からすぐ見てもらえるのが最も助かりました。これは、アプリケーションの様々な要素をストーリー化させるという非常に大切な事につながりました。後、文字数制限内で言いたい事が通じるかどうかすぐにわかったので、無駄な時間を大幅に削減できました。また、先生とは別に、海外大に出願を目指す仲間がいて話し合えるのはとても励みになりました。

# VOICE

Route Hで合格した先輩の声

Caltech(graduate & undergraduate), Stanford, Yale & Cornell

## 高校から米国トップ大の大学院に合格の快挙。 スタンフォードやイエールにも合格

金子生弥さん

つくば開成高等学校卒

合格校 ▶ カリフォルニア工科大学(大学院・学部) / コーネル大学 / デューク大学  
スタンフォード大学 / バージニア大学 / イェール大学

進学先 ▶ カリフォルニア工科大学(大学院)

## 中学時代から数学の論文を書き、 高校時代は、海外大の教授とも研究を進める

### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

自分の専門は数学です。数学の研究を進めて経験を重ねていく中で、日本の大学は自分とは相性が良くないと考え始めました。主な理由は、日本には自分の専門分野における適切な教授がいなく、学部において専門的な研究をする制度がないことです。自分は米国出身であるため、米国の大学で学びたいという思いもありました。中学生の頃から専門的な論文を書き始めたため、高校から直接大学院に進学可能であると思っていました。しかし尊敬するプリンストン大学の教授に質問したところ、学部で学問領域を広げるのも重要とのことで米国大学の学部への入学を勧められました。よって最初は米国大学の学部に入學した後に、その教授に師事するためプリンストン大学の大学院に進学するという目標を立てましたが、結果的にはCaltech(カリフォルニア工科大学)からは学部のみならず大学院への直接入学の許可を頂くことができました。Caltechにも自分の専門分野にお



ける極めて優秀な教授陣がいらっしゃるため幸運でした。

## 強みを伸ばす戦略を徹底。 SAT<sup>®</sup>、GREの免除も追い風に

### —— 進学準備や課外活動はどのように進めましたか？

高校2年生の1月からSAT<sup>®</sup>の勉強を始めましたが、コロナの影響で多数の米国大学はSAT<sup>®</sup>やSAT<sup>®</sup> Subject Testsを必須項目としないことがわかりました。これによりSAT<sup>®</sup>を受験しない方針で考え始めましたが、更にTOEFL<sup>®</sup>の勉強に割く時間も自分にとって有意義でないと考え、SAT<sup>®</sup>とTOEFL<sup>®</sup>が必須でなく、自分の専門分野において著名な教授が在籍するスタンフォード大学を学部の第一候補にしました。準備を進める中で最終的に第一候補としたCaltechの大学院に関しては例年GREが必須でしたが、コロナの影響で受験する必要がありませんでした。中学校・高校時代は自分が好きな数学を中心に課外活動を行いました。中学時は数学オリンピックの合宿メンバーに選出されることもありましたが、最前線の研究にはあまり参考にならないことから、その活動はやめました。中学校から高校までの間に7本の論文を執筆し、その内6本は研究者が利用するarXivに投稿して3本は一流数学誌にアクセプトされました。これらの業績から孫正義育英財団の第3期生として選出されました。財団生として選ばれたことで、米国の大学における財政的な懸念はなくなりました。結果的にはCaltech大学院での授業料・生活費は全額大学側の負担となりましたが、大きな心配の1つがなくなったことは心理的に余裕ができました。またホームページを作成するなどして自分の活動を多くの研究者に知って頂くために努力しました。コロナの影響で数学の学会はオンラインで開催されていたため、受験期間中にも週1回～2回程度のペースで参加して知識を増幅しました。これらの活動が出願する際に課外活動として重要な役割を果たしました。様々な分野の数学者に連絡するなどして、特に米国・欧州での人脈を広げることに注力しました。有名大学の教授と親しくなることによって、エッセイの話題が見つげやすくなり、更には推薦状も書いて頂きました。お世話になった米国大学の教授からCaltechの大学院を直接受験しないかとの話が出てきました。大学院に出願するためには3件の強力な推薦状が必要であったため、多数の数学者と深い人脈を築くことができたのは幸運でした。Route Hに入塾した高校3年生の5月以降暫くの間、質の高いエッセイを書く上での基礎を教わりました。8月下旬からCommon Applicationのエッセイを書き始め、Route Hを介して多数の修正をして頂きました。早期出願には余裕

を持って間に合わせるつもりでしたが、結局出願したのは締め切り当日でした。10月、11月は数学研究や学会発表に注力し、12月はRegular Decisionにおける各大学のSupplementary Materialsの準備をしました。大学の応募締め切り後に行われるインタビューについては沢山の要請を頂きましたが、多忙であることを理由に2校を除いて全てお断りしました。実際、受験準備のために高校卒業までに仕上げる予定であった論文執筆に数ヶ月の遅れが出ておりました。

### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

出願校のSupplementary Essayを高いクオリティで書き切ること苦勞しました。自分はCaltechの大学院も含めて13校受験しましたがその殆どのSupplementary Essayを出願期限の1週間～2週間前から書き始めました。結果として全て書き切るのはギリギリになってしまいましたが、殆ど全てのエッセイを10回以上修正して頂きました。各大学の情報収集や求められている学生像を把握することに時間がかかったのが、エッセイを書き始めるのが遅くなった理由です。特に注意したのは、出願校に所属する自分の専門分野における教授の情報を網羅的に調べることです。指導を受けたい教授の名前、その研究内容、自分の研究との関連、将来展開をエッセイに具体的に書き込めるように努力しました。このことは大学での研究生活を現実的に想像する良い訓練にもなりました。結果的には、自分が知っている教授が在籍する大学には合格し、リベラルアーツ教育重視で自分の専門に近い教授がいない大学には不合格でした。

### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

全ての合格者は主に2つの範疇に類別できると思います。1つ目はwell-roundednessを重視していて幅広く豊かな才能のある人です。2つ目はある1つの事柄に関して顕著な業績がある人です。僕の場合は後者に分類されます。Caltechの様な実績に着目する学校は後者の出願者を合格させる傾向にあるため、自分はエッセイを通して数学の話題のみに絞り、今までの実績、そして将来の自分が目標とする研究者像を伝えることを心掛けた。しかし多くのトップ大学はwell-roundednessを重視しているため、各々の大学が想定する学生像に沿って、数学についての記述を弱めて、自分について強調する内容を少しずつ変えました。

### —— Route Hのサポートでよかった点は？

Michael先生やスタッフの方々のサポートです。入塾まで独創的なエッセイを書いた経験を持たない自分にとって、良い文章の書き方をご指導頂けたことは財産となりました。先生方にはエッセイ以外にも、様々な出願項目について助言を頂きました。自分のエッセイに磨きをかけるだけでなく、ポジティブな気持ちで最後まで受験に挑戦することができました。

## Route グループで合格した先輩の声

※Global Learning Center (GLC) は、「Route G (ルートグローバル)」にリニューアルしました。  
 ※掲載している名称・サービス内容などは受講当時のものです。

**徹底的な  
ライティング指導のおかげで、  
説得力のあるエッセイを  
書けるように!**



### デポー大学 (アメリカ) 進学

原田 雄生 さん

- 受験タイプ** 海外大 専願  
**合格校** DePauw University (デポー大学) / Lawrence University / Knox College / Kalamazoo College / Lake Forest College / Ohio Wesleyan University / Bennington College / Wartburg College  
**受講クラス** ● TOEFL iBT® Test対策 Class Master  
 ● SAT® 対策 Class  
 ● 海外大学出願パック

#### 受講のきっかけ

実は、国内大学に行き、その後、大学院で海外留学をしようと思っていました。高校1年の10月に進路相談をした際、担任の先生から「日本の大学を選ばなくてもいい」と言われ、高1の1月には独学で準備を始めましたが、秋田県に住んでいたため海外進学の方法など情報収集に苦労しました。転機は、高2の5月に海外進学相談会に行ったことです。そこでGlobal Learning Centerを知りました。オンラインで受講できるため、秋田にいながらTOEFL iBT®テストやSAT®の対策や出願アドバイスを受けられるのが魅力だと思い受講を決めました。

#### 受講して感じた魅力

GLCを通して日本全国に高い志を持った友人ができたことはすごく良かった点です。授業外でも進路について相談しあうなど、お互いに切磋琢磨して出願準備を進められました。他の受講生の将来のビジョンや課外活動の大きさに鼓舞されて、「自分も負けていけない」と努力し続けることができたと思っています。

**受け身ではなく  
常にアクティブな姿勢が  
求められる  
GLCの授業で実力アップ!**



### ハバフォード大学 (アメリカ) 進学

中谷 海渡 さん

- 受験タイプ** 国内・海外大 併願  
**合格校** Haverford College (ハバフォード大学) / 東京大学 / Colby College / Grinnell College / Carleton College / Vanderbilt University (東京大学理科II類に入学後、ハバフォード大学へ)  
**受講クラス** ● TOEFL iBT® Test対策 Class Intermediate  
 ● SAT® 対策 Class

#### 受講のきっかけ

留学に興味を持ったのは高2の4月。最初は単なる海外への憧れみたいなものですが、文理選択の際に自分の将来を考えてすごく迷い、専攻も決められなかったのが海外のリベラルアーツカレッジを考え始めたきっかけになりました。受験準備を始めて、TOEFL iBT®テストの対策方法を探していたときにWebで見つけたのがGlobal Learning Centerでした。オンラインの講座であること、週1回のペースで進められること、自宅で夜に受けられること、などが受講の決め手になりました。

#### 受講して感じた魅力

GLCでは、受け身ではなく常にアクティブに授業を受けることが求められました。質問にただ答えるだけでなく、毎回自分がなぜその答えを選んだのかを説明することで、着実に力がついていきました。また、海外大学に実際に出願するまで、様々なサポートを受けられることがGLCの大きな魅力だと思います。出願のノウハウなどを持っているGLCはすごく頼りになる存在でした。

**個人の弱みに添った  
的確なティーチング。  
GLCでの学びが  
大学でも役立った!**



### ウェズリアン大学 (アメリカ) 進学

羽鳥 静華 さん

- 受験タイプ** 国内・海外大 併願  
**合格校** Wesleyan University (ウェズリアン大学) / Georgetown University / Lake Forest College / 東京外国語大学  
**受講クラス** ● TOEFL iBT® Test対策 Class Master  
 ● SAT® 対策 Class

#### 受講のきっかけ

きっかけは2つ。1つは英語ディベートの全国大会で3位に終わり、国際大会への参加機会を逃してしまったことです。もう1つは、アメリカの大学でやるようなアウトプット中心の英語に関する授業があり、その授業が大好きだったことです。通っていた高校の英語のカリキュラムを監修していた大学の教授に、「海外に行きたい」と相談したところ、海外に直接進学する方法について教えてくださいました。その際にベネッセのGlobal Learning Centerも紹介していただいたので、受講を決めました。

#### 受講して感じた魅力

GLCの授業は少人数なので、先生方が各々の弱点を理解し、それに沿ったティーチングをしてくれる点がとても良かったです。毎回の質問が個人の弱みの克服につながるようなものになっており、授業ごとの学びがとても大きかったですね。たとえばSAT®のエッセイの講座で身につけたエッセイの書き方や、自分での読み直し方などは、大学でもとても役に立ちました。

**新型コロナの影響でSAT®の受験計画が急遽変更となる中で、アメリカ・シンガポール・日本のトップ大学に合格**

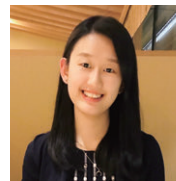


**文系・理系どちらも幅広く、興味のある分野を学べる柔軟な教育システムに魅力を感じ、海外大の受験を決意**

柳井正財団奨学生



**自分のやりたいという気持ちを大切に課外活動をする事で大学での学びにつながる興味関心を発見**



**ペンシルベニア大、スワースモア大、イェール・NUS大、京都大学 農学部・応用生命科学科、国際基督教大学等に合格**

松田 花奈先輩 (桜蔭中学校高等学校出身)

—海外の大学を受験してみようと思われたきっかけを教えてください。

Asia Union Leaders Summit (Route Hが協賛しているサマープログラム)に参加した際、異なるバックグラウンドの人々と共に作業をしたり、議論をする場面が多くありました。普段は似た環境下で育った仲間と「以心伝心」の生活だったため、難しさを覚えました。ただ、その難しさを楽しんでいる自分がいることに気づいたとき、海外大学で勉強をしたいと思いました。それから、海外大学を調べていくうちに、学生の本気度や、教授の教育に対する情熱に惹かれていきました。

—海外の大学と国内の大学の併願で大変だったことを教えてください。

新型コロナの影響で、TOEFL iBT® やSAT® の受験が当初の予定より後ろ倒しになってしまったため、それらの対策と国内大受験対策を並行して進めなければならない期間が長くなってしまいました。また、高3の2学期に、周りの仲間が国内一般受験対策にラストスパートをかける中、私はひたすらエッセイを書き続けており、不安になることが何度もありました。

—海外の大学と国内の大学の併願にどのように取り組まれましたか。

高校三年間を通して、学校での勉強に集中し、残りの時間で興味のある課外活動に積極的に参加しました。高3になったタイミングで新型コロナの影響で学校がほぼ自宅学習になったので、午前中は勉強に集中し、午後はオンラインで課外活動、と決めて時間を有効活用したのと、毎日散歩やバレーボールなどの運動も欠かさないようにしました。夏休み以降は海外大学出願のためのエッセイをひたすら書く時期が長かったので、冬に海外大学の出願を終えてからは、共通テスト対策をするのと京都大学の過去問を購入し、ひたすら問題演習をしました。

—受講されたお茶の水ゼミナールのクラスの感想を教えてください。

TOEFL iBT® 対策クラスとSAT® 対策クラスを受講しました。先生はグループワークをしたり全員が参加できるようにクラスを運営してくれて、クラスに行くのが楽しかったです。クラスメイトは、非常に英語力が高く、また、視野が世界に開かれていて様々な課外活動をしている人が多かったです。今でも連絡を取り続けている人も何人かいて、刺激を受け続けています。

**ペンシルベニア大、ミッドルベリー大、早稲田大学 基幹理工学部・政治経済学部**に合格

宮原 隼先輩 (女子学院中学校高等学校)

—中高時代に力を入れた課外活動を教えてください。

高2から高3にかけて行ったディベートに思い入れがあります。テニス部を引退した後、有志を集めてディベートの活動を行いました。部活動という枠組みがない中で、教えてくれる先生もあらず、自分たちで練習方法を考えたりするのは、苦労もありましたが楽しかったです。無謀だと思われたディベートの大会に出場し、予想以上の結果を得られ、達成感が大きかったです。

—海外の大学と国内の大学の併願で大変だったことを教えてください。

夏から秋にかけて周りの友人が国内大学の入試に向けて勉強しているのに対し、私はエッセイばかり書いており、置いて行かれるという焦りを感じていました。日本の大学にはどこにも受からないのではと心配している中で早稲田大学の理系と文系の2学部から合格をもらえてよかったです。

—受講されたお茶の水ゼミナールのクラスの感想を教えてください。

SAT® 特有の問題の解き方を教えてくれたり、授業の前後に個別でどのようにすればスコアが伸びるのか、苦手な分野をどうすれば克服できるのかなど相談に乗ってくださったのは、とても心強かったです。同じ志をもつクラスメイトからも刺激をもらい、自分も頑張ろうという励みになりました。また、SAT® の問題など、わからなかったところをクラスメイトと休み時間などに話そうことができ、その中の学びも多かったです。

—受講された海外大進学出願バックの感想を教えてください。

日本語・英語両方のエッセイ指導をして頂いたことは、とてもありがたかったです。大学出願だけでなく、奨学金出願のエッセイを書いた際に、自分では完璧だと思っても、指摘を頂けたことで、曖昧な表現があったり、自分の中で、考えがまとまっていなかったことに気付かされることも度々ありました。指摘をたくさん頂けたことで、確実に良いエッセイになったのではないかと考えています。

**東京大学 文科三類、早稲田大学 教育学部・国際教養学部 スミス大等に合格**

渡辺 紗於里先輩 (女子学院中学校高等学校)

—海外の大学と国内の大学の併願にどのように取り組まれましたか。

高校三年間を通して、海外大学に提出するGPA (評定平均) を高く維持するため、また国内大学受験の基礎作りのため学校の定期試験を最重要視していました。そのほかに、高1ではTOEFL® のスコアをできるだけ上げきることを、高2では充実した課外活動を意識し高2の冬からはSAT® 対策コースを受講しました。海外大と国内大で気持ちが半々だったため、選択肢をできるだけ増やすという目標を、シーズンごとと月ごとに重点を置くべきことを自分なりに決めてそれに集中しました。

—受験で忙しい高3をどのように過ごされたか教えてください。

TOEFL® やSAT® は、オリジナルの分析ノートを作り自分と解答解説の思考回路の違いや改善点を毎回まとめて、文章や問題のタイプごとに自分が改善すべき部分を明確化しました。11月中旬から東京大学の過去問を解き始めました。12月からは、海外大のエッセイを書きながら共通テストの予想問題を数回解きました。私立の過去問は約5年分、国立は約10年分、弱いところはさらに10年分ほど解きました。

—受講されたお茶の水ゼミナールのクラスの感想を教えてください。

クラスの雰囲気がとても明るく、クラスメイトと話し合う時間も多かったため自然と仲良くなり、先生が真剣に優しく面白く本当に沢山のアドバイスを下さったため、どんなに疲れた日でも元気になって帰ってくるようなクラスでした。

—今、受験を終えてみて、海外大受験にチャレンジしたこと、その経験はご自身にとどのような意味を持っていますか。

国内大への進学を考えている今振り返っても、海外大を受験して本当に良かったと思っています。まず課外活動しようと思ってから、自分のやりたいという気持ちを大切にどんどん新たな世界に足を踏み入れられるようになり、そこで今まで出会わなかったような人に出会い、今にも強く繋がる新たな興味関心が生まれました。また、国内大の準備中は考えるのを疎かにしがちな私自身の personality, passion, potential について、課外活動や特にエッセイを書く過程で上辺だけの考えでなく本当に確かなものを探し掘り下げていく行為は、どの場所で4年間を過ごすかにかかわらずこれからの私の生き方を探求する際の基盤となる大切なことでした。

## 「Route グループ」とは？

日本の高校からハーバード大、イエール大をはじめとした海外のトップ大に、毎年多数の合格者を輩出し続けている進学塾。出願対策×英語テスト対策に加え、各種イベントやコミュニティからの情報提供で日本の中高生のグローバル進路実現をサポートします。



海外トップ大進学塾

オンライン



Route Hプロデュース

英語講座

オンライン

教室受講\*

※首都圏、関西圏にお住まいの方。

中学生

「Route H」が主催・共催・協賛する  
各種イベントに参加する。

海外進学・留学ラボを通して  
最新の情報を収集する。

アカデミック英語基礎力育成講座を受講する。

話す・書く・聞く・読むという英語4技能に加え、Feeling(感性)+Thinking(思考力)を加えた6技能を伸ばし、組み合わせる力を養う独自プログラム。「英会話力」ではなく、海外で勉強する際に必要となる「アカデミック英語力」の基礎を徹底的に身につける。

高校1年生・高校2年生

高校3年生

Route Hが主催・共催・協賛する  
各種イベントに参加する。  
Route H 海外トップ大進路サポート  
を受講する。

海外のトップ大学進学を目指し、受験戦略  
を立て、スケジュールを引き、出願する大学  
を決める。定期的なレッスンや面談や添削  
を通じて、自らの強みや特徴を提出書類や  
エッセイに落とし込む。

アカデミック英語完成講座、  
TOEFL iBT® Test/SAT® 対策講座を受講する。

アカデミックレベルで公用語として運用できる英語力を身につける。「速く読む」「正確に聞く」「深く理解する」「論理的に話す」「独創的に書く」など、高い英語力を目指し、TOEFL iBT® Test や SAT® での高得点へつなげる。早い段階で目標をクリアし、出願の準備を開始する。

セミナーや  
カウンセリングによる  
充実の進路サポート



## 夢と目標を叶える挑戦！海外トップ大学を目指して

海外トップ大学を目指すことは、高い目標を掲げながら努力を積み重ねる旅路を歩むということです。Holistic Approach（総合的なアプローチ）という、出願者を様々な角度から評価する海外大受験では、「これさえやれば良い」というような答えは存在しません。では、海外トップ大学が求めているのは、どのような人物なのでしょう。簡潔に言えば、それは「唯一無二の個性を持った人材」です。

では、どうすればそのような人材になれるのでしょうか。この問いに答えるのは容易ではありませんが、ヒントを挙げるなら、学校内外の活動を通じて、自分自身のこだわりや個性を認識し、それらを最大限伸ばすことです。この文章を読んでいるあなたが、「自分のやりたいことが分からない」という課題を抱えている場合、まずは自分が、「何を」「なぜ」「誰と」「どのように」取り組みたいのかを、文章に起こしてみましょう。それを通じて自分の個性を見つめ直し、その個性を伸ばすために、「やってみよう！」と思える活動を全力で取り組み、努力や試練を乗り越えた先に生まれる自分だけのストーリーを語れるようになります。

Route Hには、中学・高校生活を通じて何かに全力で打ち込んできた人たちが多く集まります。高2の終わりに入会后、約1年間かけて、高校での学びや成果、そして自分の考え方や価値観を最大限に表現できるよう全力で取り組みます。これらの書類の中で、多くの時間と労力を注ぐのがエッセイの作成です。米大学の場合、オンライン共通願書を通じて全大学に提出するパーソナルエッセイの他に、大学ごとに内容が大きく異なるサプリメントエッセイがあります。各大学が、自学が求める人材を獲得するため、毎年内容を少しずつ変えています。海外トップ大の場合、1大学あたり、設問数が8問ある場合もあるため、合計で50個以上のエッセイを書くということも珍しくありません。

私たちRoute Hは、1人ひとり違った個性を持つ皆さんの、隠された魅力を最大限に引き出し、それらをエッセイという形で表現できるようになること。また、1年間という長期にわたり、高いモチベーションを維持できるサポート体制を整えています。オンライン授業を担当する講師だけでなく、各カウンセラーや、その他のスタッフもチーム一丸となり、皆さんの心に寄り添い、強みや特徴を理解し、あなただけの物語を作り上げるお手伝いをします。

高校生の皆さん、日本人講師、ネイティブ講師、担当カウンセラー、そして海外トップ大を目指す同年代の仲間があなたを待っています。皆さんも、私たちRoute Hと共に、海外大学トップ大学に挑戦してみませんか。



海外トップ大進学塾



## 米国・英国最難関大レベル※1 を目指す少人数、定員制※2 のオンライン講座。(充実のトータルサポートプログラム)

※1 US News Best National University Ranking/Best National Liberal Arts College Ranking の上位 30 大学が目安。 ※2 定員に達した場合、募集を締め切る場合があります。 ※ここでご紹介している内容は変更になる場合があります。

高2	海外トップ大 進路サポート
<b>定員</b>	<b>30名程度</b>
<b>対象</b>	日本在住の方ももちろん、世界中どこからでも受講可能です。 ※時差に関しては要相談
<b>入会基準</b>	高2：TOEFL® iBT 90点以上 (IELTS 6.5以上) / SAT®1350点以上 (ACT®も可) ※その他、学校の成績、課外活動の活動状況も面談時に確認させていただきます。
<b>特徴</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 月1回のオンライン指導 日本在住の方ももちろん、世界中どこからでも受講可能です。</li> <li>1対1の個別レッスン 課外活動は、取り組み状況が一人ひとり異なります。限られた時間の中で最大のパフォーマンスを発揮するためには、どう行動すべきか。個別レッスンを通じて一緒に考えます。</li> <li>専任講師の配置 各生徒に専任講師がつき、担当生徒の理解を深めつつ受験全体をサポートします。また、適宜、他の講師と連携しながら受験を進めます。</li> <li>チャットの回数制限なし オンラインチャットで、いつでも質問することが可能！</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自己分析の補助(生徒の強みや特徴を引き出す)</li> <li>●課外活動の戦略立案、スケジュール作成</li> <li>●海外大学進路情報の提供、大学の選び方の指導</li> <li>●課外活動等で使用する書類等の作成補助、添削(日本語)</li> <li>●面接の練習(課外活動応募時に必要な場合、日本語を使用)</li> </ul>

高3	海外トップ大 出願サポート
<b>少人数個別</b>	
主に、米国・英国のトップ大学へ合格するためのプログラムです。最大1年間、専任講師やカウンセラーと共に受験に取り組めます。受験戦略の立案、個別最適なスケジュール作成、大学選びのアドバイス、英語や日本語のエッセイ作成など、海外大学受験で求められることを包括的にサポートします。	
<b>完全個別</b>	
世界ランキング TOP 30 位以内の大学を本気で目指す生徒に対して、各生徒に専任講師(日本人・ネイティブ)が付き、1対1レッスンを通じて受験全体をサポートします。	
<b>定員</b>	<b>30名程度</b>
<b>入会基準</b>	英語力 TOEFL® iBT 100点以上 (IELTS 7.0以上) かつ SAT® 1500 点以上 ※参考数値 (ACT® も可)
<b>成績</b>	4.5程度 (5段階評価の場合) ※参考数値
<b>その他</b>	世界的な課外活動や外部大会での受賞歴など大きな成果を出している方
<b>期間</b>	1月～翌1月 (1年間) ※通年で応募を受け付けております。期間後のサービス延長も可能。
<b>特徴</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オンライン受講だから、全世界どこからでも受講できる</li> <li>2 困ったら、いつでもチャットで質問できる</li> <li>3 専属のカウンセラーとチーム全体が受験をサポートしてくれる</li> </ol>
<b>サービスの種類</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語エッセイ講座 (基礎) : 自己分析、夢や目標を明確にする この講座の目的は、自分の強みや特長、大学で学びたいこと、将来の夢や目標を言語化することです。授業や課題を通じて、エッセイ作成前の土台を完成させます。授業は日本語で行います。</li> <li>2. 日本語エッセイ講座 (発展) : 奨学金・総合型選抜対策 (志望理由書) 提出書類やエッセイ作成のサポートを行います。クラスでは、他の受講生や講師からアドバイスをもらいつつ、各財団のフォーマットに沿った形で書類を作成します。授業は日本語で行います。</li> <li>3. 英語エッセイ講座 (基礎) : 米国パーソナルエッセイ対策コース パーソナルエッセイの書き方の基礎を学びます。「自分とはどんな人物か?」についてパーソナルエッセイでは書いていきますが、このようなタイプのエッセイを書き慣れていない場合は、感覚を掴むことが難しいため、まずはこのクラスで書き方の基礎をマスターしていきます。授業は英語で行います。</li> <li>4. 英語エッセイ講座 (発展) : 個別大エッセイコース 海外の大学 (アメリカやイギリスなど) へ出願する際に求められる様々な英語エッセイの (パーソナルエッセイ、サブレメントエッセイなど) 作成をサポートします。授業は英語で行います。</li> </ol>

# 英語力を武器に、国内大&海外大受験を有利に進める! グローバルに活躍できるアカデミック英語が習得できる中高

「RouteG(ルートグローバル)」は、英語初学者から世界トップ大志望者まで対応のレベル別講座です。英文法や語彙力を固めるアカデミック英語基礎力育成講座と、オールイングリッシュで実践力を高めるアカデミック英語完成講座、SAT®対策講座があります。

## 英語レベル別講座

お子さまの英語レベルに合わせて受講できるので、無理なく英語力を高められます。



Route Hがプロデュース

英語講座

	LV.	講座名	1回(1週)の授業時間・講師 ※講座により週2回	受講開始目安	履修後到達レベル
<b>Academic English (6技能)</b>					
SAT 対策	-	SAT®	120分授業(ネイティブ120分)	TOEFLiBT®85点～	SAT®高得点
	6	Master	120分授業(ネイティブ120分)	TOEFLiBT®80点	TOEFLiBT® 100点～110点
アカデミック 英語完成	5	Intermediate	120分授業(ネイティブ120分)	英検®準1級/ TOEFLiBT®60点	TOEFLiBT®80点
	4	Beginning	120分授業(ネイティブ120分)	英検®2級/ TOEFLiBT®40点	英検®準1級/ TOEFLiBT®60点
<b>Foundation (4技能)</b>					
基礎力 育成	3	Foundation 3	Academic Basics90分授業 + 文法60分授業 (ABIはバイリンガル 文法は日本人/バイリンガル)	英検®準2級	英検®2級/ TOEFLiBT®40点
	2	Foundation 2	文法90分授業 + Language Activities60分授業 (文法は日本人/バイリンガル、LAはバイリンガル)	英検®3級	英検®準2級～ 英検®2級
	1	Foundation 1	文法90分授業 + Language Activities60分授業 (文法は日本人/バイリンガル、LAはバイリンガル)	英語初学者～ 英検®4級	中学英語の完成・ 英検®3級

※TOEFL®は、ETSの登録商標です。このコンテンツはETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。※英検®は、公益財団法人日本英語検定協会の登録商標です。このコンテンツは、公益財団法人日本英語検定協会の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

# 生向けの英語塾「RouteG」

## 少人数オンライン授業

- オンラインは1対6の少人数クラス。授業中に発言する回数が多く、集中して学習できます。



- 講師は海外トップ大のエッセイ指導やSAT対策の経験豊富なネイティブ講師陣と本物の英語を磨けます。
- 本来の意味がわかる英単語学習、重要構文の演習、エッセイライティングなど、予習・復習サイクルで着実に英語力を高められます。

## 6技能を伸ばす独自メソッド



質の高いサービスと圧倒的な海外トップ大合格実績により、全国の自治体、教育委員会、学校から信頼をいただいています。

## 都道府県など行政、自治体、教育委員会、学校への講座提供実績（2024年抜粋）※五十音順

### 茨城県 様

次世代グローバルリーダー育成

#### 目的

英語に関する高い意欲や能力を有する中高生を対象に、国際社会で活躍できる人財を育成する。

- オンライン英語講座（TOEFL®、SAT® 対策など）
- 探究力育成講座
- ディスカッション、ディベート、模擬国連、英語プレゼン、WSC
- 海外トップ大生との交流会

### 熊本県 様

海外大学進学支援

#### 目的

海外進学を志望する中高生を学校の垣根を越えて集い、英語力やエッセイ作成などの海外進学に必要な能力向上を図る場や海外進学に関する情報提供等の支援を行い、海外進学を促進する。

- 学校、オンラインでの英語講座（TOEFL®、SAT® 対策など）
- 思考力講座
- エッセイ対策講座
- 教員研修
- 海外トップ大生との交流会

### 東京都 様

海外大学進学支援

#### 目的

海外進学を目指す国際バカロレア生、保護者、教員に進学指導に特化した情報及び支援を提供し、進路希望を実現する。

- 学校での英語講座（TOEFL®、IELTS™、SAT® 対策など）
- 世界のトップ大学情報提供
- エッセイ対策講座
- 教員研修
- 保護者会
- 海外トップ大生との交流会

### 横浜市 様

海外大学進学支援

#### 目的

高校生を対象に海外進学に必要な英語力の向上、エッセイやディスカッションの手法の習得を図るほか、異なる文化や価値観を尊重し、日本や横浜の文化や歴史等について海外に発信する力を養成する。

- 学校、オンラインでの英語講座（TOEFL®、SAT® 対策など）
- 思考力講座
- エッセイ対策講座
- 教員研修
- 海外トップ大生との交流会

## お申込みの流れ／無料カウンセリング・無料体験のご案内

オンライン海外トップ大出願指導

### Route H の無料カウンセリングはこちら

STEP  
1

無料カウンセリングにお申し込みください。

公式サイトからお申し込みください。  
※公式サイトは右記の二次元コードからアクセスできます。



ルートエイチ

検索

STEP  
2

お申込み完了後、2～3日以内にメールにて、  
カウンセリングの調整を行います。

STEP  
3

入会申し込み／受講スタート

英語講座

### Route G の体験はこちら

STEP  
1

無料体験授業にお申し込みください。

公式サイトからお申し込みください。  
※公式サイトは右記の二次元コードからアクセスできます。



ルートグローバル

検索

STEP  
2

お申し込み後の自動返信メールで、  
受講方法をお知らせします。

STEP  
3

接続の確認とオンライン操作の  
ガイダンスを実施し、無料体験授業を受講

STEP  
4

入会申し込み／受講スタート

海外大進学や留学に役立つ情報を無料で配信中

 海外進学・留学ラボ

LINEのお友だちに追加してください。

海外進学に役立つ無料オンラインイベントや英語学習法など、  
進路の可能性を広げる最新情報をすばやく受け取れます。



早めを知ると  
役立つ情報も満載  
無料イベントやセミナーにも  
お気軽にご参加ください。



## 海外大合格実績抜粋 <2024年4月現在>

オックスフォード大学 (イギリス)	1名	トロント大学 (カナダ)	9名
マサチューセッツ工科大学 (アメリカ)	1名	ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL) (イギリス)	4名
ハーバード大学 (アメリカ)	1名	ミシガン大学アナーバー校 (アメリカ)	1名
ケンブリッジ大学 (イギリス)	2名	ワシントン大学 (アメリカ)	3名
スタンフォード大学 (アメリカ)	3名	デューク大学 (アメリカ)	1名
カリフォルニア大学バークレー校 (アメリカ)	2名	エディンバラ大学 (イギリス)	3名
インペリアル・カレッジ・ロンドン (イギリス)	2名	ノースウェスタン大学 (アメリカ)	4名
イエール大学 (アメリカ)	1名	ニューヨーク大学 (アメリカ)	1名
シカゴ大学 (アメリカ)	2名	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (アメリカ)	6名
ペンシルベニア大学 (アメリカ)	3名	キングス・カレッジ・ロンドン (イギリス)	6名
ジョンズ・ホプキンス大学 (アメリカ)	1名	メルボルン大学 (オーストラリア)	1名
コロンビア大学 (アメリカ)	1名	ジョージア工科大学 (アメリカ)	1名
カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (アメリカ)	4名	ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ)	2名
コーネル大学 (アメリカ)	1名	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (イギリス)	1名

※大学名掲載順位は、「Times Higher : Education World University Rankings 2025」より

## 国内大合格実績抜粋 <2024年4月現在>

東京大学	3名
東京医科歯科大学	1名
広島大学	1名
早稲田大学	3名
慶應義塾大学	2名
上智大学	4名

※2024年10月1日に東京工業大と東京医科歯科大が統合して東京科学大に変更

## 奨学金実績 <2024年10月現在>

柳井正財団奨学金
江副記念財団奨学金
笹川奨学金
グルー・バンクロフト基金奨学金
東進ハイスクール 海外大学留学支援制度
エン人財教育財団 海外進学奨学金
ウェズリアン大学 フリーマン・スカラーシップ
JASSO 学部学位取得型奨学金

TOEFL® and TOEFL®iBT are registered trademarks of Education Testing Service(ETS). This brochure is not endorsed or approved by ETS.  
SAT® is a trademarks of the College Entrance Examination Board, which does not endorse this publication.